２節 放送番組の制作

報道・スポーツ番組

Ⅰ．取材・制作・放送システム

１．ニュース取材・制作設備

17年度に行った各番組のセット更新では，スタジオ内の整備として，プロジェクター式３面再撮を撤去した跡地に，新LED大型ディスプレー（縦3,240mm，横5,760mm）を整備した。２年前に整備したラウンドLED大型ディスプレー（ピッチ数1.69mm）に比べて，LEDのピッチ数が1.25mmとより高精細になり，動画・静止画をフルハイビジョンでより美しく映し出すことができるようになった。また，将来を見越して４K画質にも対応できる。

新LED大型ディスプレーは，『おはよう日本』『ニュース７』『ニュース　シブ５時』『サタデー／サンデースポーツ』『ニュースチェック11』で活用された。LEDディスプレーにCG制作したセット画像を表示させ，あたかも実際の空間が存在するかのように見せるハイブリッドセットを実用化することで，セットの立て込み時間の短縮につながった。また，さまざまな背景CGを制作することで，より３次元的な奥行きのある演出が可能となった。さらに，ニュースインデックスについても，より見やすく効果的な表示に変更し，ニュース演出の多様化に貢献した。

各部署との連携・協力を綿密に図り，スケジュール管理を徹底して，通常の放送や緊急報道を維持しながら，２週間の短期間でセット更新を実現した。

また，本部ニュースセンターでは，映像サーバーシステムの利用が完全に定着した。ニュースセンターから送出するニュース・緊急報道・情報番組，ほぼすべての映像素材を本システムから送出している。映像交換システムの整備も完了し，北海道，東北，東海・北陸，中国，九州・沖縄地方の放送局との映像交換が可能となった。

本部ニュースセンターでは，７つの送出卓（電子台本運用卓：５台，マニュアルスイッチング卓：２台）を配置し，送出制御装置によりニュース項目単位で送出卓を切り替えながら送出している。13年度からこれらの設備の老朽化更新を進め，16年の年末にすべての設備更新が完了し，緊急報道を含めたニュース送出設備として運用している。

海外支局の設備整備では，エルサレム支局のスタジオ制作・伝送設備更新，ベルリン支局のスタジオ制作・伝送設備更新工事，ロンドン支局の屋上カメラと共聴設備，上海支局の漏水対策ドレンの設置工事などを実施し，海外現地局との信頼性に加え運用性の向上を図った。

また，海外総支局取材カメラや編集機のファイルベース化更新では，PCベースのノンリニア編集機を，順次各総支局に配備した。同時にファイルベースの取材用カメラを導入し，ファイルベース化の基本を確立させた。

２．緊急報道設備

Jアラート，QF緊急放送の迅速化のため，緊急ニュース卓・予備卓でのノルマル自動アンロック機能追加リリース作業を18年３月末で完了し，要請すると同時に自動アンロックとなり，「開始」ボタンで迅速に緊急放送が可能となった。

また，18年３月22日からPLUM法（巨大地震が発生した際でも精度良く震度が求められる新しい予想手法）を導入した緊急地震速報が運用開始となり，緊急地震速報の発表方法が変更され，緊急地震速報の発表時間が60秒から90秒に延長された。地震の分析手法でも，従来法に加えてPLUM法が追加され，続報が出た場合に緊急地震速報の自動スーパー画面が自動で更新されるようになった。

３．報道情報システム

報道情報システムは，ニュース原稿の作成から制作，送出までを担うNHKの報道を支える基幹システムである。多くのホストコンピューターとサーバー群を中核とした大規模なネットワークシステムとなっている。

VPN技術を使って報道現場と制作現場をつなげ素早いニュース放送につなげている。また，多数の報道情報端末にサーバー映像の試写とテロップの電子発注ができるアプリケーションを導入し，迅速かつ効率的なニュース制作が行える環境を整えている。

Ⅱ．緊急報道

17年度は，福岡県と大分県で大きな被害が出た「平成29年九州北部豪雨」や，群馬県の草津白根山の噴火など，各地で災害が発生した。

NHKは公共メディアとして国民の命と暮らし

を守る使命を果たすため，防災・減災報道に総力を挙げて取り組んだ。特に災害発生前から，視聴者に危険を「自分のこと」と受け止めてもらい，身を守る行動を促す報道を目指し，特設ニュースやL字放送，データ放送などで伝えた。

ロボットカメラや，ヘリ中継，インターネット回線を使う「IP中継」などを活用し，現場の様子を迅速かつ機動的に伝えた。地域放送では，被災者に役立つ生活情報などを詳しく伝えることにも力を入れた。

さらに，関連ニュースのインターネットへの同時提供や，アプリ「NHKニュース・防災」など，多様な媒体を通じた情報発信を展開した。

１．自然災害

（１）平成29年九州北部豪雨

台風３号と梅雨前線の影響で，17年７月５日から６日にかけ，発達した積乱雲が帯状に連なる「線状降水帯」が福岡県と大分県にかかり続けた。福岡県朝倉市では県が設置した雨量計で，９時間に900ミリを超える雨量を観測した。気象庁の観測点でも24時間の雨量が545ミリを超えたほか，大分県日田市でも370ミリに達し，いずれも平年の７月１か月分を大幅に上回る雨が１日で降るという，記録的な豪雨となった。

この豪雨で土砂災害や河川の氾濫が相次いだ。国土交通省によると，福岡県や大分県など６つの県の合わせて55か所で土石流などの土砂災害が発生し，48か所で河川の氾濫や浸水被害が発生した。また，10の河川の流域で，国内の災害としては最大級とみられる計約21万立方メートルの流木が発生し，周囲の住宅地などに流れ出して，大きな被害が出た。総務省消防庁のまとめでは，福岡県と大分県で合わせて42人が死亡し，２人が行方不明となった。また，最も多いときで約3,000人が避難所などに避難した。

NHKは，全国放送・地域放送で，特設ニュースを通じて，刻一刻と変わる災害の最新情報を伝えた。台風３号が接近し災害の危険性が高まった４日朝からは初めての試みとして，気象災害が専門の記者による「リアルタイム解説」を行った。ビッグデータを分析しリアルタイムで可視化する「NMAPS」を活用し，特に危険が高まっている地域を地図上で具体的に示して身を守る行動を呼びかけた。また，避難指示や勧告の対象となっている地域名を繰り返し伝えるなど，視聴者に「自分のこと」と受け止められる情報発信を目指した。

地域放送局では，きめ細かい情報の発信に力を入れた。福岡局が７月21日までに実施したローカル特設ニュースは，総合テレビで約23時間，ラジオ第１で約55時間，L字放送で約238時間に達した。また，避難所や医療機関，給水などの情報を伝える「ライフライン放送」を，テレビで約５時間，ラジオでは約52.5時間にわたり実施した。

（２）台風21号

17年10月23日，「超大型」で強い台風21号が静岡県御前崎市付近に上陸した。「超大型」は，風速15メートル以上の強風域の半径が800キロを超える台風で使われる表現で，超大型の台風が上陸したのは，気象庁が統計を取り始めてから初のケースとなった。

台風を取り巻く雨雲や前線の影響で，近畿地方や東海地方を中心に記録的な大雨となった。土砂災害や河川の氾濫が相次ぎ，総務省消防庁のまとめでは，三重県や大阪府など６つの府県で合わせて８人が死亡した。

なお，台風が上陸した前日，10月22日は第48回衆議院選挙の投票日で，NHKは特設ニュースの中で，台風情報と開票速報を順次伝えた。

（３）草津白根山噴火

18年１月23日午前10時２分ごろ，群馬県にある草津白根山の本白根山鏡池付近で噴火が発生した。近くにある草津国際スキー場で訓練中だった自衛隊員が噴石の直撃を受けて死亡したほか，11人が重軽傷を負った。気象庁は噴火警戒レベルを３に引き上げ，鏡池付近の火口からおおむね２キロの範囲で噴石への警戒が必要とした。地元自治体では立ち入り規制を実施した。

NHKは，噴火の発生直後から特設ニュースを開始し，専門の記者が「リアルタイム解説」を通じ，刻一刻と変わる状況を伝えるとともに警戒を呼びかけた。

（４）地震・津波

17年度，最大震度５弱以上を観測する地震は７回あった（５強４回，５弱３回）。津波警報や注意報の発表はなかった。

２．映像取材体制

（１）航空取材

17年度は札幌・仙台・東京・新潟・静岡・名古屋・大阪・高松・広島・福岡・鹿児島・沖縄の12基地で15機のヘリコプターを運用し，災害などの緊急報道に対応した。７月の九州北部豪雨では，ヘリコプターが甚大な被害の状況を，特設ニュースでいち早く伝えた。

また，固定翼機については優先契約を継続した。

７月の島根，福岡，秋田の大雨取材，２月の北陸の大雪取材では，ヘリコプターが飛べない悪天候下でも撮影を行って，特性を生かした航空取材体制を構築した。

（２）IP中継・伝送体制

インターネット回線を利用して映像伝送や生中継が可能なIP機器は，17年度にも追加の整備を進め，全国で合計640式以上に強化した。11月の日米首脳会談では，首都圏各地に展開した30を超える取材クルーからIPライブ映像が届き，トランプ大統領の移動の様子を逐次放送した。17年度末にはIP機器からの映像をクラウド上で分配し，各放送局が映像を収録できる仕組みが完成した。

（３）デジタル展開・画像立体化システム

ショート動画のSNSなどへの発信を積極的に進め，若年層などへの接触を図った。また，九州北部豪雨や東日本大震災７年での３月11日の祈りなど，360度VR映像でニュースを切り取り，ウェブやSNSで公開した。さらに，気象災害や日食など，放送番組の理解促進のため，取材スルー映像を活用したライブストリーミングを270回以上実施した。

このほか，データジャーナリズムの一つである「空撮映像立体化システム」を活用し，相次いで噴火した草津白根山と新燃岳や原発事故に備えて全国の原子力発電所の立体化空撮も進めた。

（４）東日本大震災

震災７年目となる17年度も，東北３県への全国応援を継続した。応援体制は，17年度は年間およそ1,500人日で，発生からの７年間で延べ２万8,200人日を超えた。

Ⅲ．選挙システム

選挙システムは，ホストコンピューターと全国のサーバー・端末などをネットワークで結んで出口調査や最新の開票データなどを集計し，当選確実の判定や，番組・データ放送・インターネットなどの開票速報画面の作成などを行う設備である。

17年７月２日の東京都議会選挙や10月22日の第48回衆議院選挙では，候補者情報を一元管理する候補者データベースで立候補者の情報を管理し，告示日の候補者紹介等に活用した。衆議院選挙では選挙区の０増５減の定数削減や，区割り変更など，事前にソフトウェア改修対応を行った。

衆議院選挙の開票当日，台風21号の襲来により，全国60の選挙区において出口調査を一部あるいは全面的に中止にするなどの影響があった。また，投票箱が当日中に開票所へ届かない地域もあったため，開票作業が翌日に延期された自治体が全国で11か所に上ったほか，比例の最終当選者確定は翌日の午後９時半にずれ込んだ。

総合テレビは『大河ドラマ』の放送時刻を変更し，東京都議選では午後７時58分から，衆議院選挙では午後７時55分から，開票速報を放送した。選挙システムと連動した速報画面のほか，バーチャルCGや大型タッチスクリーンおよび縦モニターを使用した動きのある演出とともに，ビッグデータ解析結果を具現化した映像表現（Soltコーナー）によって，開票状況を迅速かつ分かりやすく伝えた。特に衆議院選挙では，16年度に整備された横長のラウンド大型LED再撮を活用して，当選当確者全員の顔写真を表示させる取り組みを行い，きめ細かな開票速報番組を放送した。

また，ツイッターやSNSを利用した演出を初めて加味し，開票速報スタジオ内にウェブ連動コンテンツブースを設け，開票速報番組内でのテレビ放送とネットサービスの融合を図った。

Ⅳ．国際回線ネットワーク

NHKでは，世界で起きた紛争や災害，国際情勢などに24時間体制で対応するため，海外総支局を結ぶ国際回線ネットワークを構築して運用している。

１．ネットワークの仕組み

ニューヨークのアメリカ総局，パリのヨーロッパ総局，そして東京の放送センターは，光ファイバーと衛星を組み合わせた基幹回線（欧米日専用線，欧日専用線）で結ばれている。欧米の各支局は，それぞれの総局と回線で結ばれ，迅速かつ安定的な映像収集が可能である。

この基幹ネットワーク上には，映像ファイルを実時間より短い時間で高速転送する機能や，ファイル転送中に生中継が発生した際，自動的に両者を最適な速度に変更し同時並行で伝送を続行できる機能も搭載している。

ファイルで番組配信する海外の放送局も出始めていることなどから，映像ファイルを自動的に基幹システムに取り込むシステムも構築している。このような最新技術は効率的なネットワーク運用を可能にするだけでなく，より迅速な緊急報道を可能にしている。

このほかアジア・アフリカ・中東地域の支局も東京まで迅速に映像を伝送できる回線を整えている。

２．緊急報道と映像収集

海外の政情不安・テロ・災害等の緊急報道では，NHKの海外総支局や取材現場だけでなく，世界各地の放送機関や通信社などからの映像を迅速に入手することが重要となる。放送センターには，海外からの映像入手を専門に扱うチームが24時間体制で海外からの伝送路の確保と現場の記者やカメラマンを支援している。

NHKでは世界19の国と地域，24の放送機関から映像を受信しBS1の放送などで利用している。緊急時にはこれらの映像の利用に加え，現地の放送機関や通信社・映像プロダクションなどに直接連絡をして映像入手を行っている。SNSなどに一般の人から投稿される映像UGC（User Generated Contents）もニュースの重要なコンテンツとなりつつある。

17年度は米大統領就任関連，北朝鮮の核実験や相次ぐ弾道ミサイルの発射，世界各地でのテロ，ラスベガスでの銃乱射，フランスの大統領選など，さまざまな国際ニュース映像を扱った。ピョンチャンオリンピック・パラリンピック，MLB，プレミアリーグ，全豪・全英テニスなどの多岐にわたるスポーツ中継にも対応した。17年度に世界各地から届いた映像は３万5,699件，総伝送時間は，４万1,785時間となった。

３．映像伝送から映像データ共有へ

通信のデジタル化が進み，映像素材の収集方法は大きな変革期を迎えている。送り手と受け手を線で結び映像を送るこれまでの「伝送」から，あらゆる所で自在に映像をアップロード・ダウンロードする「共有」に変わりつつある。技術の進歩により，衛星・光ファイバー・インターネット・携帯通信など多様な手法で国境を意識することなく映像を共有できる時代になった。

先端技術を効率的に運用するため，先端技術を常に把握し，映像をより迅速に安定的に収集（共有）するシステム設計・構築をコンスタントに行う業務体制が求められている。

一方，最新技術が十分に取り入れられていない地域は通信インフラが脆弱（ぜいじゃく）であるため，従来型の衛星伝送や，小型の衛星通信端末などを持ち込んで対応している。

全世界から自在に映像を入手するためには，従来型から最新技術まで幅広い知識とノウハウが不可欠になっている。また，NHK報道の信頼性向上には，極めて高度なサイバーセキュリティー対策が不可欠なため，強力に対応策を展開している。

４．国際間の映像素材交換

NHKは，国際回線を使って内外のニュース映像を海外の放送機関にも提供している。

このうち「アジアビジョン（AVN）」は，ABU（アジア太平洋放送連合）傘下の30の国と地域，35の放送機関（18年４月現在）が参加している。15年度から衛星による素材交換をすべてインターネット経由に切り換え，毎日，素材ファイルを相互に交換している。ファイル交換にしたことで回線時間に縛られない即時性の高い交換を実現した。

17年度に交換したニュースは１万8,239項目，このうちNHKは1,515項目のニュース映像をAVNに提供した。AVNに提供された映像は，ジュネーブのEBU（欧州放送連合）本部へもインターネットを経由したファイルで送られ，欧州域内の放送機関に連日配信されている。

Ⅴ．ニュース

政治では，17年６月，天皇陛下の退位に向けた特例法が成立・公布され，生涯，天皇であり続ける仕組みになった明治以降で初めてとなる天皇の退位が実現することになった。また「共謀罪」の構成要件を改めて「テロ等準備罪」を新設する改正組織犯罪処罰法が成立した。

７月，東京都議会議員選挙の投開票が行われ，東京都の小池百合子知事率いる「都民ファーストの会」が圧勝し都議会第１党になり，自民党は議席を半分以下に減らし過去最低を大きく割り込んで大敗した。

８月，安倍首相が内閣改造と自民党の役員人事を行い，第３次安倍第３次改造内閣が発足した。蓮舫代表の辞任に伴う民進党の代表選挙が行われ，前原誠司氏が新しい代表に選出された。

９月，安倍首相は，消費税の使い道の見直しなどについて国民に信を問いたいとして，臨時国会の冒頭に衆議院を解散することを表明した。

10月，衆議院の解散を受けて，民進党の前原代表は，東京都の小池知事が代表を務める新党「希望の党」への事実上の合流を提案。民進党出身者は希望の党，枝野幸男氏を代表とする「立憲民主党」，無所属の３つに分裂し，立候補することになった。第48回衆議院選挙の投開票が行われ，自民党が単独で選挙前議席に迫る圧勝，公明党と合わせて，憲法改正の発議に必要な全議席の３分の２を上回った。野党は，立憲民主党が選挙前の３

倍を超える議席を獲得し，野党第１党になった。

11月，特別国会が召集され，安倍首相は第98代総理大臣に指名され，第４次安倍内閣が発足した。アメリカのトランプ大統領がアジア歴訪の国として最初に日本を訪れ，安倍首相と会談した。北朝鮮が弾道ミサイルを発射し，政府は，アメリカ全土やロシア，ヨーロッパも射程に入る新型のICBM＝大陸間弾道ミサイルとの見方を強めた。

12月，皇室会議がおよそ25年ぶりに開催され，天皇陛下が19年４月30日に退位され，皇太子さまが翌５月１日に即位されることになった。

18年２月，安倍首相は，ピョンチャンオリンピックの開会式に出席するため韓国を訪問し，ムン・ジェイン大統領と会談した。

３月，日本を含む11か国が参加するTPP＝環太平洋パートナーシップ協定の署名式が，南米チリで行われた。学校法人「森友学園」への国有地売却を巡って，財務省は，この問題が明らかになった17年２月以降，14件の決済文書に書き換えがあったと国会に報告，安倍首相は，行政全体の信頼を揺るがしかねないと陳謝した。

経済では，景気の回復が高度経済成長期の「いざなぎ景気」を超え，戦後２番目の長さとなった。日経平均株価は上昇傾向が続き，18年１月，約26年ぶりの水準となる２万4,000円台まで値上がりした。しかし，２月以降，アメリカ発の“世界同時株安”が度々金融市場を襲い，“適温相場”に変調の兆しが生じた。一方，物価上昇率は日銀の大規模金融緩和にもかかわらず目標の２％は程遠く，アベノミクスが始まって５年が過ぎたものの政府・日銀が目指すデフレ脱却は実現できていない。

17年度は官民で不正事案が相次いだ。財務省では，「森友学園」への国有地売却を巡り決裁文書が改ざんされる不祥事が発覚した。この問題で当時の理財局長が引責辞任し，国会で証人喚問が行われた。一方産業界では，日産自動車や神戸製鋼所など大手製造業で検査不正が相次いで発覚し，日本のものづくりへの信用が揺らぐ事態となった。

このほか主な出来事として，17年９月，経営危機に陥っていた東芝が半導体子会社「東芝メモリ」をアメリカの投資ファンドを中心とする“日米韓連合”に２兆円で売却することで合意し，再建に向けて前進した。12月，日本はEUとの間でEPA＝経済連携協定の交渉妥結で合意した。また，18年１月には，仮想通貨の大手交換会社コインチェックが不正アクセスを受けて580億円相当の「NEM」が流出する問題が起きた。

自然災害では，17年７月，九州北部に「線状降水帯」と呼ばれる発達した雨雲がかかり続け，記録的な豪雨となり，福岡県や大分県を中心に土石流や河川の氾濫などが相次ぎ，死者・行方不明者は42人に上るなど，大きな被害が出た。気象庁は一連の豪雨災害を「平成29年７月九州北部豪雨」と命名した。

７月から10月にかけては４つの台風が上陸し，西日本と東日本を中心に各地で被害が出た。12月から２月にかけては全国的に気温の低い日が続き，日本海側を中心に記録的な大雪となったほか，１月には東京の都心でも23センチの積雪を観測した。雪下ろしや落雪など，大雪関連の死者は高齢者を中心に全国で100人以上に上った。

各地で火山活動も活発化した。10月には鹿児島県と宮崎県の県境にある霧島連山の新燃岳で11年以来となる噴火が発生，その後，３月には爆発的な噴火が発生し，溶岩が火口の外に流れ出たほか，ごく小規模な火砕流も発生した。１月には群馬県にある草津白根山の本白根山で噴火が発生，訓練中の自衛隊員１人が死亡，スキー客など11人が重軽傷を負った。

巨大地震に関する情報の大きな見直しが行われた。11月，気象庁はそれまでの予知を前提としていた東海地震の情報の発表を取りやめ，南海トラフ全域を対象に巨大地震発生の可能性を評価する新たな情報の運用を始めた。３月には緊急地震速報に新たな仕組みを導入，巨大地震発生の際には続報が発表され，より広い範囲に警戒が呼びかけられることになった。

東日本大震災から７年となり，宅地の造成工事や災害公営住宅の建設が進む一方で，災害公営住宅では住民の高齢化が進み，独り暮らしの高齢者が孤立したり，かさ上げした地域で住宅が再建されない空き地が目立つようになったりするなどの課題が顕在化した。いまだに生活再建のめどが立たない人も多く，避難生活を続ける人は，全国で７万3,000人余りに上っている（18年３月現在）。

また，東京電力福島第一原発の事故では，除染で放射線量が基準を下回ったとして，17年までに広い区域で避難指示が解除された。しかし，関係する９つの市町村によれば，避難指示が解除された地域に住民票を移している人のうち，実際に住んでいるとみられる人の割合は２月の時点で15％にとどまっており，復興に向けた大きな課題となっている。

一方，廃炉に向けた工程では７月に３号機で，

１月には２号機で，それぞれ溶け落ちた核燃料（デブリ）とみられる堆積物が初めて確認された。しかし，デブリをいかに安全に取り出すかは最大の難関とされ，最長40年とされる廃炉の完了に向けて引き続き検証が必要となっている。

海外では，北朝鮮が17年も弾道ミサイルの発射や核実験を相次いで強行したが，18年に入ると，一転して，ピョンチャンオリンピックに代表団や選手団を派遣，その後南北首脳会談，米朝首脳会談にも臨んだ。

アメリカのトランプ大統領は，エルサレムをイスラエルの首都に認定，中国などからの鉄鋼製品に高い関税をかけることを表明するなど物議を醸してきた。

中国では，17年10月の共産党大会で，習近平国家主席の指導理念が党規約に盛り込まれ，18年３月の全人代（全国人民代表大会）では，国家主席の任期を撤廃する憲法改正案を採択。習主席への権力集中が進んだ。

中東では，過激派組織IS・イスラミックステートのイラクやシリアの拠点が相次いで陥落した一方，８年目に入ったシリアの内戦が終わる兆しは見られない。

アジアでは，ミャンマー西部に住む少数派のロヒンギャの人たちが，迫害を恐れて隣国に避難する動きが止まらず，ミャンマーへの国際的な非難が強まった。

ヨーロッパでは，フランス，イギリス，ドイツなどで大統領選挙や議会選挙が行われ，フランスやドイツでは，EUを支持する勢力が勝利したものの，右派勢力への支持も広がる事態となった。一方，ロシアの大統領選挙では，プーチン大統領が圧倒的な支持を集め，再選された。

スポーツでは，17年９月，陸上の男子100メートルで21歳の桐生祥秀選手が，日本選手で初めて10秒の壁を破り９秒98をマークした。

11月，横綱・日馬富士が巡業先で平幕の貴ノ岩を殴ってけがをさせたことが発覚。日馬富士は責任をとって引退し，さらに刑事事件として傷害の罪で略式起訴され，罰金50万円の略式命令を受けた。一方，被害者の貴ノ岩の師匠，貴乃花親方が日本相撲協会の調査に協力しなかったなどとして理事を解任される事態となった。

12月，投打の二刀流，大谷翔平選手がプロ野球「日本ハム」から大リーグ「エンジェルス」に移籍。「野球の神様」と呼ばれた名選手になぞらえてアメリカでも「日本版ベーブ・ルース」として注目され，３月の開幕以降，初打席初ヒット，初登板初勝利，本拠地デビュー戦から２試合連続ホームランと，滑り出しからこれ以上ない結果を示した。

２月，韓国のピョンチャンで開かれた冬のオリンピックで，日本は金メダル４個を含む史上最多の13個のメダルを獲得。このあとピョンチャンで開かれたパラリンピックでも10個のメダルを獲得し，スポーツ界にとって２年後の東京オリンピック・パラリンピックに向けて弾みがつく形となった。

１．主なニュース番組

（１）総合テレビ

毎正時のニュースのほかに早朝から深夜まで，視聴者の生活サイクルを踏まえ，それぞれの時間帯に即したニュース番組を放送した。

朝一番の『NHKニュース　おはよう日本』や午前の動きをまとめた『正午ニュース』，夕方には最新ニュースや生活情報を伝える『ニュースシブ５時』，そして国内外のニュースを多角的に掘り下げ伝えるメインニュース『NHKニュース７』や『ニュースウオッチ９』，そして深夜11時台には，SNSなどを活用して視聴者との直接のやり取りも意識しながら一日を振り返る『ニュースチェック11』を放送した。

さらに，土曜には１週間のニュースをまとめて伝える『週刊　ニュース深読み』，日曜には海外ニュースに特化して分かりやすく伝える『これでわかった！世界のいま』，これらの番組で幅広い視聴者層の関心に応えた。

九州北部豪雨や台風などの災害，衆議院解散や天皇陛下の退位日程が固まった皇室会議，北朝鮮によるミサイル発射など大きなニュースの際は，放送枠の拡大や特設ニュースによって分厚く速報した。

17年度の放送枠の拡大回数は150回・約32時間30分，特設ニュースは413回・約110時間に達した。また，視聴者にいち早く情報を知らせるため画面に文字で第一報を伝えるニュース速報は，全国向けだけで749回に及び，主要なニュースのほか地震情報や交通情報など安心・安全に直結する情報を伝えた。

（２）Eテレ

手話ニュースは，毎日伝える『NHK手話ニュース』と平日夜の『NHK手話ニュース845』，土曜の『週間手話ニュース』，日曜の『こども手話ウイークリー』の４番組を放送した。

（３）BS1

『BSニュース』は，毎日朝５時台から午後11

時台までの毎時50分から10分間を基本に国内外のニュースや各地の話題をコンパクトにまとめて伝えた。

（４）R1・FM

ラジオニュースは，災害時やそのおそれがある時に“減災”に役立つ「安心ラジオ」の機能を高めるため，17年度も緊急対応力の強化を図った。

まず，「さいたま報道別館」からニュースを放送する回数を以前の２倍以上に増やし，17年度夏からは毎月１回，ニュースを送出した。同別館は，首都直下地震により渋谷の放送センターから放送ができなくなった場合に備えて整備されたもの。午後７時の全中ニュースをはじめ，午後の全中ニュースや夕方の関東ローカルニュースなどさまざまな時間帯のニュースをそのつど発信した。放送回数を増やしたことが，ニュースデスク，アナウンサー，技術職員の習熟度の向上につながっている。

また，気象庁の電文を同別館で直接受信できるよう，新たに機材を整備し，天気予報の放送も実施した。さらに，ニュース送出を担当した職員の声を生かし，緊急時に働きやすいようにレイアウトも適宜変更した。

地震については，震度５弱以上の揺れを観測した際には，通常番組を脱してR1・FM・R2の３波で地震関連のニュースを伝えた。

九州北部豪雨では，ラジオセンターの職員も現地に取材に入り，被災地の状況や課題などについて『NHKジャーナル』などでリポートした。

17年は，九州北部豪雨をはじめ，９月に日本列島を縦断した台風18号や10月に関東などを直撃した台風21号など，大雨による災害が多く，そのつど，特設ニュースを組んだり，通常ニュースの枠を広げたりして，必要な情報を発信した。

東日本大震災７年に際しては，東北各局の記者が作成したリポートを午後７時からの『きょうのニュース』で連日放送したほか，18年３月10日には特別番組を組んで，復興の状況や在り方などについて，被災者に寄り添う立場から２時間にわたって伝えた。

北朝鮮によるミサイル発射や核実験など，日本の安全保障に関わる事態については，そのつど，特設ニュースを組んだり，通常ニュースの時間を延長したりするなどの対応を取り，国民への情報発信に力を割いた。

選挙については，７月に都議選，10月には衆院選が実施された。都議選では，政治部・社会部の記者解説も交え，４時間半にわたり放送した。特に午後８時台は，一部の時間帯でテレビが開票速報を放送しなかったこともあり，全国の開票状況を速報し続けた。また，放送にあたっては，全中は各党の消長などの大勢や受け止めなどを中心に，ローカルでは選挙区・個人名を丁寧に伝えるなど，放送の仕分けも意識した。

衆院選では，午後８時から翌日午前５時まで開票状況や当確・当選情報，それに政局情報などについて，政治部や社会部記者の解説を交えて伝えた。この日は，超大型で非常に強い台風21号が日本列島に接近し，夜のうちに上陸する事態となり，開票速報と台風報道の時間配分に気を配りながら，その両立を実現した。

８月には，広島のいわゆる原爆孤児たちの思いと戦後の歩みを取り上げた特番を放送した。

12月１日には，天皇陛下の退位に向けて約25年ぶりに皇室会議が開催された。この際には，午前11時40分から45分間の特設ニュースを放送し，会議の内容や首相・官房長官の会見，それに今後の見通しや検討課題などを伝えた。さらに，午後５時からは，多彩なゲストを招いて２時間にわたる特別番組を発信し，重層的な皇室報道を実施した。

12月28日には，２時間半にわたって「年末ハイライト」を放送した。池上彰氏をメインに，各分野の専門家も招いて，多様な観点から１年を振り返るとともに，未来への展望を示した。

18年２月のピョンチャン五輪では，２年後の東京五輪も見据え，競技のもようを中継で伝えるとともに，メダル獲得を速報したほか，通常のニュース枠の中でも競技の魅力や選手の活躍について伝えた。

３月のピョンチャンパラリンピックでも，競技の魅力や選手の技の素晴らしさ，努力を積み重ねてきた過程などをニュースなどで伝えた。

このほか，国民の安全・安心に関わるニュースや関心の高い出来事，大きな節目となる動きなどに際しては，特設ニュースや通常ニュースの時間拡大を柔軟に編成し，さまざまな角度から情報提供に努めた。

さらに，17年度の新たな取り組みとして，AIスピーカーの将来の普及を視野に，AIスピーカーへのニュースの配信を開始した。最新のデジタル機器に的確に対応し，音声の公共メディアとして一定の役割を果たすことができた。

２．ニュースサイト「NHK NEWS WEB」

各分野のニュースをインターネットで原則１週間公開している。また，取材記者が深く掘り下げ

た署名記事の「WEB特集」や，テレビでは伝えきれないネットの話題をいち早く取り上げる「News Up」を毎日掲載している。

（１）放送同時提供，ライブストリーミング

総合テレビの特設ニュースをサイトで配信する放送同時提供は，北朝鮮のミサイル問題や台風，それに衆院選関連や佐川前国税庁長官の証人喚問など38回実施した。これは16年度の1.4倍に当たる。また，ライブストリーミングは，16年度の3.5倍に当たる378回行い，緊急ニュースに加え，上野動物園のパンダやニューヨークの巨大クリスマスツリー点灯式といったニュースでも行った。

（２）NHKニュース・防災アプリ

16年６月に公開した「NHKニュース・防災アプリ」は，最新ニュースや災害情報，ライブ配信などをまとめて提供するNHK公式アプリとして認知度が広がっている。ダウンロード数は着実に伸びているほか，１週間に訪問したユーザー（ユニークユーザー）数が高い水準になっていて，１週間の閲覧数（ページビュー）も，「NEWS WEB」に匹敵するアクセスを記録するまでになっている。

（３）特設コンテンツの展開

注目のニュースは特設サイトを立ち上げ，情報をまとめて分かりやすく提供した。「衆院選2017」「ピョンチャンオリンピック」「東日本大震災あの日から７年」などのほか，「News Up」やテレビの企画などと連携したサイト「居場所のない子どもたち」「外国人“依存”ニッポン」もアクセスを集めた。

（４）リーチ拡大に向けて

18年３月にLINEアカウントメディアに公式アカウント「NHK NEWS」を開設。女性や若者の読者をターゲットにしたオーダーを組み，これまで「NHK NEWS」のコアユーザーではなかった層への拡大を図っている。このほか「NHK NEWS WEB」では「サクサク経済Q&A」「NHK VR」なども展開し，リーチの拡大を目指している。

３．支局

〔北海道〕

広大なエリアを抱える北海道で地域に密着した取材を続ける支局は重要な役割を果たしている。札幌局・千歳支局は，航空会社エア・ドゥが大規模な運休を余儀なくされた背景にあるパイロット不足の深刻な現状を伝えた。また，アメリカ軍輸送機オスプレイが初参加した日米共同訓練について演習場周辺の自治体や市民団体の反応を交えて報じた。

札幌局・小樽支局は，無人島の小屋から家電製品などを盗んだ北朝鮮の木造船事件で第１管区海上保安本部の動きを取材し，全国発信した。また，路線価で倶知安町が全国トップの上昇率となっている背景にあるアジアからの投資の動きの実態を伝えた。

札幌局・岩見沢支局は，まちの再生に取り組む夕張市が教育環境の充実にクラウドファンディングを使う動きやその成果を発信した。また，東京オリンピック・パラリンピックに向けて農作物の国際認証の取得を目指す高校生を紹介した。

旭川局・稚内支局は，温暖化など環境の変化が地域にもたらすさまざまな影響に関するニュースを数多く放送した。９月にはイカの豊漁による経済効果について，11月には市街地にシカが数多く出没している現状についてリポートした。また，人口減少や交通過疎など地域が抱える課題についても取材し，３月には天塩町が始めたライドシェアの取り組みを伝えた。

釧路局・根室支局は，北方領土での共同経済活動に向けた調査や航空機による初の墓参について全国に発信した。また，北朝鮮の太平洋に向けたミサイル発射の際には沿岸の様子を中継で伝えた。このほか８年連続日本一のサンマの水揚げや，酪農が盛んな道東で生産された牛乳の販路を台湾に拡大しようとする動き等も伝えた。

室蘭局・苫小牧支局は，アイヌ遺骨問題やアイヌ語の継承など，アイヌに関するニュースや番組を取材・制作した。また，国内最大級の恐竜全身骨格化石「むかわ竜」や，特産シシャモの資源管理に向けた新発見，ピョンチャン五輪に出場したアイスホッケー女子代表選手の奮闘などを伝えた。

〔東北〕

東北の支局は，７年となる東日本大震災からの復興の動きや東京電力福島第一原発事故の影響，課題を伝えたほか，人口減少や過疎化が進む中での地域の取り組みなどを全国に発信した。

仙台局・石巻支局は，復興支援のための野外芸術祭「リボーンアート・フェスティバル2017」や東松島市に完成した復興祈念公園などの取材を通して，支援の在り方や風化・伝承をテーマに発信。震災７年の節目では，北上川流域を襲った“河川津波”の脅威を検証する『NHKスペシャル』を制作した。

仙台局・気仙沼支局は，南三陸町の商店街や役

場新庁舎再建などの取材を通じて，復興を巡る地域の課題の発信に力を入れた。また，災害公営住宅で暮らす被災者の生活再建の問題や，風化を防ぐ語り部の会の動きなどを全国に伝えた。

山形局･鶴岡支局は，プロ野球「ソフトバンク」にドラフト１位で入団した吉住晴斗投手のプロでの初キャンプに密着して詳しく伝えた。

山形局・酒田支局は，廃車のシートベルトを藻場としてリサイクルして，庄内の海の再生にもつなげようという取り組みをリポートし，全国ニュースや国際放送にも展開した。

山形局・米沢支局は，県内にも甚大な被害をもたらした羽越水害から50年の節目に，当事者の体験や全国の先進例を取材し学ぶべき教訓を報じた。

盛岡局・大船渡・陸前高田支局は，被災地最大規模のかさ上げが進む陸前高田市の課題などを全国に伝えたほか，熊本地震で被災した少年との交流を通じて前向きになった住田町の男性の思いなど，遺族の心を伝える番組を全国に発信した。

盛岡局・宮古支局は，台風10号の被害から１年がたった岩泉町の課題や教訓を伝える番組を制作。海産物の販売先に悩む被災地の企業の動きを台湾で取材し，全国・海外に発信した。

盛岡局・釜石支局は，人口流出が進む復興の町の現実を震災７年当日の『NHKスペシャル』で報じたほか，復興を学びに来たイラク人や小学生への津波防災教育に取り組む高校生の姿などを，全国・海外に発信した。

福島局・郡山支局は，原発事故の避難指示が解除された葛尾村の復興に向けた動きのほか，郡山市内の病院で発生した国内で初めてのカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の大規模な院内感染を伝えた。

福島局・会津若松支局は，17年に発覚した２人の死体遺棄事件のほか，全域に原発事故の避難指示が出されたままで，会津若松市に役場ごと避難している大熊町の現状について伝えた。

福島局・いわき支局は全域で避難指示が続く双葉町の現状や，運行再開区間が広がりつつあるJR常磐線など，復興に向けた動きや町の変貌を伝えた。また，いわき市などを舞台にした準大手ゼネコン・安藤ハザマによる除染事業に関係する経費水増し事件では，関係者から内部資料を入手し詳しく報じた。

福島局・南相馬支局は，避難指示の大部分が解除された南相馬市や飯舘村で，住民が戻る上で課題となっている医療や福祉，教育の取り組みなどを発信。復興のため，放射性物質の濃度が一定以下の除染土を農地で再利用するという，国の実証事業を受け入れざるを得なかった飯舘村の苦悩を伝えた。

福島局・白河支局は，ご当地ヒーローや特産の果物など，地域おこしの動きを広く伝えたほか，東日本大震災で壊れ，８人の死者・行方不明者を出した農業用ダムの教訓を後世に伝える動きを取り上げた。

青森局・八戸支局は，「山・鉾・屋台行事」がユネスコの無形文化遺産に新たに登録された「八戸三社大祭」で，巨大な山車を新たに作り替える過程を半年にわたって取材し，企画ニュースを発信。需要が減り続ける葉たばこに変わってぶどうを栽培し，地元で醸造したワインを新しい特産にしようという取り組みも全国に伝えた。

青森局・弘前支局は，りんごを並べて大きな絵を描く「りんごアート」作品の制作過程に密着，デザイン担当のフランス人と弘前市の15年にわたる交流も詳しく紹介した。また，日本海側の海岸に相次いで漂着した木造船を巡り，撤去費用の財政負担に苦しむ沿岸自治体の実情をいち早く報じた。

青森局・三沢支局は，アメリカ軍三沢基地のF16戦闘機が近くの小川原湖に燃料タンクを投棄した事故を巡り，アメリカ軍の謝罪やタンク回収の動き，それに地元の漁業者に与えた影響などを詳しく取材し，全国発信した。

青森局・むつ支局は，人口減少が深刻化する中，商店主が講師を務める市民講座「まちゼミ」の話題や，海上自衛隊の艦船で隊員向けに作られている「海自カレー」をご当地グルメにしようという動きなど，地域の活性化に向けたユニークな取り組みを取り上げた。

〔関東甲信越〕

長野局・松本支局は，17年６月に発生した県南部を震源とする震度５強の地震被害の状況を迅速に発信した他，御嶽山噴火災害から３年の節目に遺族の思いなどを全国に向けて伝えた。

長野局・飯田支局は，リニア中央新幹線の工事への地元の期待とともに，住民生活や環境への影響などを多角的に報じた。

新潟局・村上支局は，地域の伝統行事や豊かな自然などを取材するとともに，クマによる人的な被害などを伝えた。

新潟局・佐渡支局は１月，厳しい冷え込みで水道管の破裂が相次いだことによる大規模な断水被害を取材し，市民生活への影響を伝えた。

新潟局・長岡支局は，東京電力柏崎刈羽原子力発電所の６号機と７号機が国の審査に合格したことを受け，地元自治体の反応や住民の声を伝えた。

新潟局・上越支局は，大規模火災に見舞われた糸魚川市の復興に向けた動きを継続的に取材し，ニュースの特集などで伝えた。

甲府局・富士吉田支局は，富士山の夏山シーズンに併せて登山の安全や環境への配慮など，さまざまな課題に対する地元自治体の取り組みのほか，噴火に備えた訓練などの動きを伝えた。また，四季折々の富士山や周辺の自然の美しい映像を全国に発信した。

甲府局・大月支局は，８月に大月市で記録的な豪雨が観測された際に現地の状況を映像取材し，継続的に伝えた。

横浜局・横須賀支局は６月，米海軍横須賀基地を拠点とする第七艦隊のイージス艦が静岡県沖でコンテナ船と衝突し，７人が死亡した事故を事故直後から伝えた。

横浜局・厚木支局は，相模原市の知的障害者施設で19人が殺害された事件から１年になることを受けて，被害者の家族の思いなどを伝えた。

横浜局・小田原支局は，茅ヶ崎市でいじめを受けた小学生が２年間も不登校になっているのは背景に学校や教育委員会の対応に問題がある可能性があることを伝えた。

横浜局・鎌倉支局は，10月の台風21号で江の島の観光施設などが高波の被害を受けたことや，91歳を超えても地元で活動する絵本作家の衰えない創作活動を伝えた。

前橋局・沼田支局は，みなかみ町の全域と隣接する新潟県の一部が「ユネスコエコパーク」に登録されたことや，地元の喜びの声を伝えた。

前橋局・両毛広域支局は，大泉町で職務質問を受けた外国人が手錠をかけられたまま逃走した事件や，神奈川県座間市のアパートで９人の遺体が見つかった事件の被害者の１人，群馬県内の女子高校生について取材し，発信した。

水戸局・つくば支局は，土浦市出身の大相撲・髙安の５月の大関昇進や，牛久市出身の横綱・稀勢の里のけがによる６場所連続休場などに際し，地元関係者の反応を全国に発信した。

水戸局・日立支局は，国の重要無形民俗文化財に指定された「常陸大津の御船祭」の特別開催を詳細に伝えた。

水戸局・かしま支局は，神栖市で消防の消火栓が腐食した問題を精力的に取材し，消火栓の管理を巡る課題を伝えた。

千葉局・成田支局は，成田空港に３本目の滑走路を建設し，運用時間を延長するとした拡大案を詳細に取材し，３月の合意に至るまでの動きを伝えた。

千葉局・銚子支局は，東日本大震災から７年がたつ被災地・旭市の状況を取材し，体験の風化に警鐘を鳴らす地元住民の姿を伝えた。

千葉局・東葛支局は，半世紀前の東京五輪・公式ポスターのモデルとなった男性の隠されたエピソードを取材，80歳となった今の思いを伝えた。

千葉局・房総支局は，10月の台風被害について取材，発信したほか，温暖な気候のもとで咲き誇る河津桜やポピーなどの様子を伝えた。

宇都宮局・両毛広域支局は10月，カスリーン台風から70年になるのに併せ，足利市内の中学生が教訓を学び，対策を考える動きを取材し，地域防災の課題を伝えた。

宇都宮局・大田原支局は，17年３月に高校生ら８人が死亡した那須町の雪崩事故以降，定期的に追悼の動きを取材し，献花や慰霊碑設置に向けた動きを伝えた。

さいたま局・秩父支局は，端午の節句に“こいのぼりをあげない”という神川町矢納地区に伝わる風習の秘密を探り，発信した。

さいたま局・所沢支局は，10月の台風21号で浸水被害が出た川越市で，避難の呼びかけが行われなかった初動対応の課題などを検証し，伝えた。

さいたま局・熊谷支局は，ピョンチャンパラリンピックで５個のメダルを獲得した村岡桃佳選手の地元・深谷市の盛り上がりなどを伝えた。

さいたま局・春日部支局は，東日本大震災と原発事故から７年になるのに併せて，福島に残した住宅を解体するかどうかの決断を迫られた県内の避難者の思いを伝えた。

首都圏放送センター・多摩支局は，人口増加に伴う町田市の保育園での園児受け入れなど子育ての課題解消に向けた取り組みを取材，発信したほか，ピョンチャンパラリンピックを前に小学校で進められている障害者スポーツ教育の動きを伝えた。

〔中部〕

愛知県で17年６月，東名高速道路で乗用車が反対車線に飛び出して観光バスと衝突した事故では，現場の新城市を担当する名古屋局・岡崎支局をはじめ局内一丸となって報道に取り組んだ。

７月，犬山市の国宝・犬山城の「しゃちほこ」が雷の直撃を受け破損し，小牧支局が復活までを節目節目で丁寧に追った。

８月，台風に伴って，豊橋支局は風速65メートルに達する竜巻被害の実態を取材するとともに，巻き込まれたトラックのドライブレコーダーを独自に入手し全中でも特ダネとして伝えた。

バードストライクが問題となる中，中部空港支局では，夜間，侵入してくる渡り鳥の対策強化を決めた，という独自ネタをリポートで伝えた。

２月，人の方から手助けしたくなる「弱いロボット」を，人間とロボットとの関係を研究している豊橋技術科学大学が開発したというニュースを豊橋支局が取材。リポートとして全中や国際放送でも発信した。

石川県では12月，金沢局・能登支局が，県沿岸に北朝鮮から来たとみられる木造船の漂着が相次いでいる問題で，イカ釣り漁師の証言などを分析し，北朝鮮の木造船が粗末な装備で能登半島沖の日本の排他的経済水域「大和堆」で操業し，台風などで転覆して漂流･漂着していることを伝えた。

１月，輪島支局は記録的な寒波で水道管が凍結・破裂して能登半島の広い地域で断水したことに加え，空き家が多くなっていることが，水道管の破裂箇所の発見を難しくしていることを伝えた。

２月，小松支局は能美市に本社がある繊維加工会社が，中東の男性の民族衣装「ガンドゥーラ」の生地の開発に取り組み，大きなシェアの獲得に至った背景を国際放送で伝えた。

静岡県では，浜松市を舞台にしたNHKの『大河ドラマ』「おんな城主　直虎」が１年間にわたって放送されたのに併せて，静岡局・浜松支局を中心に，地域の取り組みを取材し伝えた。

富士宮市に，世界文化遺産に登録された富士山の環境保全や観光客への情報発信の拠点となる「富士山世界遺産センター」がオープンし，富士支局がリポートなどで放送した。

三島市出身の詩人，大岡信氏が４月に亡くなり，地元の「大岡信ことば館」（11月に閉館）で行われた追悼イベントなどを，沼津支局が中心となって取材を進め放送した。

伊豆半島が，活火山や地殻変動の跡を刻んだ世界でまれな地域であることを評価され，ユネスコから「世界ジオパーク」に認定される見通しとなり，伊東支局が伊豆市など地元の反応を伝えた。

伊豆半島沖で６月，アメリカ軍のイージス艦とフィリピン船籍のコンテナ船が衝突し，イージス艦の乗組員７人が死亡する事故があり，下田支局を拠点として，下田海上保安部などへの取材を進めて事故の詳細を伝えた。

福井局・嶺南支局は，高浜原発３・４号機と大飯原発３・４号機の再稼働の動きを多角的に取材し，県域を越えた「広域避難」や，複数の原発が同時に被災する「同時発災」の避難の課題を指摘した。また，高速増殖炉もんじゅの廃炉に向けた節目となる協定締結など，関係者の動きを継続的に発信した。北朝鮮による拉致被害者の帰国15年に併せて開かれた大規模集会を取材し，被害者の地村さん夫妻らが問題の早期解決を訴える姿を全国に伝えた。

富山県では，入善町で10月，台風21号で国の天然記念物「杉沢の沢スギ」が大きな被害を受け，魚津支局が専門家の調査や再生に向けた取り組みを継続取材している。高岡支局は，11月に高岡市の予算編成で約40億円の財源不足が明らかになって以降，市の財政健全化への取り組みや，歳出削減による市民への影響の取材を続けている。

さらに，両支局とも「ものづくり」に焦点を当てた企画を制作し，魚津支局が中心となって取材したファスナーメーカーの国際戦略は総合テレビとBSで，高岡支局が取材した海外からも注文が相次ぐ「鐘」を生産する鋳物メーカーの匠の技は総合テレビと国際放送で，それぞれ放送された。

三重県では，津局・尾鷲支局が７年前の紀伊半島豪雨を教訓に全国に先駆けて紀宝町が導入した「タイムライン」という取り組みに注目し，県版タイムライン導入など，防災の取り組みを取材し，伝えた。また，後継者不足の漁協での全国でも珍しい企業参入の動きを伝えた。

四日市支局は，経営再建中の東芝が四日市市にある半導体子会社の「東芝メモリ」を「日米韓連合」に売却を決めるまで，地方の雇用維持や企業が撤退した場合の地方経済に与える影響などを伝えた。

岐阜県では，岐阜局・高山支局が，８月に発覚した介護老人保健施設で入所者が相次いで死亡するなどした問題で，警察担当の記者と協力しながら，入所者の家族や施設の関係者などを広範囲に取材し，施設内で何が起きていたかを探った。

多治見支局は，８月に瑞浪市の中央自動車道で道路脇の斜面に投棄していた廃棄物が流れ込んだ事故で，いち早く現場の映像を伝えるとともに，周辺への影響などを継続的に取材した。また，ピョンチャンパラリンピックに向けて，アルペンスキーの日本代表選手が使うチェアスキーのサスペンションが県内（可児市）の工場で設計されたことを全国に伝えた。

〔近畿〕

近畿管内の各支局は，17年度も豊かな自然と悠久の歴史・文化を背景に，今の時代を象徴する現象や時流を彩るさまざまな事象を取材，放送した。

大阪局・関西空港支局は，国際線利用者数が記録を更新する中，中国の国慶節や旧暦の春節の連休に来日した外国人旅行者の動向などを伝えた。また，関空を離陸したKLMオランダ航空機からパネルが落下して大阪市中心部を走っていた乗用車にぶつかったトラブルや，LCC（格安航空会社）「ピーチ・アビエーション」が国際線の乗客を国内線到着口に誤って誘導し，一部の乗客が入国審査を受けなかったトラブルを取材した。文化庁の審議会が「百舌鳥・古市古墳群」を世界文化遺産への登録に向けて推薦することを決めた際には，地元・堺市などの取り組みを伝えた。岸和田市では，11月に再選された市長が，前回選挙で自民党の推薦を得るため関係者に現金を渡した問題を詳しく取材した。この問題で市長は辞職し，２月に改めて市長選挙が行われた。

和歌山局・南紀新宮支局は，県内で60人が犠牲になった紀伊半島豪雨から６年目の現状を取材し，新宮市でお年寄りの早期避難に向けた取り組みを取材した。また，捕鯨の町として知られる太地町とデンマークのフェロー諸島の町が協定を結び，捕鯨文化の継承で協力することなどを取材した。

南紀田辺支局は，台風が接近する度に中継などを交えて状況を伝えた。紀伊半島豪雨６年の取材では，土砂崩れで壊滅した田辺市の伏菟野（ふどの）地区の再生に取り組む人々の思いを取材した。また，上富田町で地滑りのため半年を超える避難指示が出されている状況をリポートで伝えた。

串本支局は，環境に配慮した漁法でマグロを捕り，付加価値の高い商品で利益を上げるとともに，マグロ漁の持続可能性を高めようという地元業者の取り組みを取材した。また，台風接近の際には中継などを交えて状況を伝えた。

橋本支局は，台風21号による大雨で紀の川市で土砂崩れや浸水が相次いだ状況を取材し，伝えた。また，台風21号の影響で５か月にわたって運休した南海電鉄高野線について，観光への影響や運転再開の様子などを伝えた。

神戸局・姫路支局は，８月にJR姫路駅南側のビルに移転した。姫路市のこども園が定員を超える園児を受け入れるなどの不正が発覚して認定を取り消された問題を継続取材し，特集したほか，100年以上の歴史を持つ老舗百貨店の閉店や市民に長年親しまれた回転展望喫茶店の閉店などを伝えた。全国でも14年ぶりとなる神河町のスキー場新設を巡る動きや福崎町の妖怪を使った町おこし，宍粟市の森林大学校の人材育成の取り組みなど自治体の話題も積極的に伝えた。

豊岡支局は，兵庫発地域ドラマ『あったまるユートピア』と連動し，地元で行われたドラマのトークショーなどの話題を随時放送した。９月の台風では城崎温泉の旅館の被害を中継するなど災害情報を伝えた。このほか，朝来（あさご）市の生野銀山のマネキンアイドルグループ「GINZAN BOYZ」の話題などをリポートした。

淡路支局は，災害に備えて島内に２か所緊急用のヘリポートを確保した。淡路市での阪神・淡路大震災23年の追悼式を中継した。南あわじ市や淡路市の弥生時代の遺跡の研究成果を伝えたほか，遺跡を町おこしにつなげようという動きをリポートした。

京都局・丹後舞鶴支局は，舞鶴市で戦後のシベリア抑留の悲劇を伝える活動を始めた中学生の語り部を伝えた。

学研都市支局は，戦中に国策の工事に従事した在日韓国・朝鮮人の子孫たちが入居できる市営住宅が宇治市で完成したのに併せて，人々の思いを伝えた。

大津局・彦根支局は，６月，彦根市発祥の大手エアバッグメーカー・タカタが経営破綻したことを受けて，地元への影響などを伝えた。８月には台風の大雨で長浜市の姉川が氾濫し，その様子をいち早く伝えた。地元出身の陸上選手，桐生祥秀選手が男子100メートル走で日本初の９秒台を達成した際には，地元の盛り上がりや桐生選手が頭角を現した経緯を取材した。特産の近江牛の台湾輸出や，地元スーパーが「越境EC」という新手法で中国の「爆買い」を取り込む動きなど，地域の新たな取り組みも伝えた。

奈良局・奈良やまと路支局は，考古学報道の拠点として，地元研究所や自治体の発掘調査成果を随時取材。田原本町の弥生時代の遺跡で建物を刻んで描いたとみられる土器が確認された話題や，戦後まもなく焼失した法隆寺金堂壁画の修復など，考古学･文化財ニュースを伝えた。８月には，紀伊半島豪雨から６年になるのを前に奈良県南部の被災地を取材。今も続く行方不明者の捜索を巡る新たな動きや，大雨で山が丸ごと崩壊する「深層崩壊」を事前に察知するための対策の現状を追った。ピョンチャン五輪では，地元出身で前回スノーボード銅メダリスト・平岡卓選手が今回も出

場，地元の盛り上がりや応援の様子を取材した。

〔中国〕

中国地方の各支局では原爆投下など先の大戦と向き合い続けているほか，在日アメリカ軍の空母艦載機の配備など東アジアの安全保障の最前線となりつつある地域の変貌を伝えた。

被爆地ヒロシマに隣接する広島県呉市は旧海軍の一大拠点で，太平洋戦争末期に沈没した巨大戦艦「大和」の母港でもあった。16年５月，呉市は海底に沈んだ大和の現状をサルベージ会社と共同で調査したが，その際，会社は大和とともに沈んだ駆逐艦「磯風」を発見していた。

広島局・呉支局は18年２月，この事実を掘り起こし，戦争の厳しい現実として伝えた。海底の大和は確認されていたが，大和に同行し沈んだ艦船が見つかったのは初めてだった。

広島局・尾道支局は，地元出身の著名な映画監督・大林宣彦氏が初めて原爆を取り上げる新作を制作することを監督本人へのロングインタビューも交え伝えた。80歳になる大林監督はがんを患いながらの制作となる。また，尾道支局は10月に行われた衆議院選挙で，地域に大きな影響力をもっていた亀井静香元郵政改革・金融担当大臣が立候補せず引退することをいち早く伝えた。

広島局・福山支局は，正月のおせち料理の食材となる地域特産のくわいの収穫最盛期に併せ，福山市がくわいの生産で日本一であることなどを伝えた。特に出荷先の上位には郷土料理のっぺ汁にくわいを使う新潟県が入ることなど地域でも知られていない意外な一面を詳しく伝えた。

山口県では基地と向き合い伝えることが急増している。８月，在日アメリカ軍の再編の一環として，神奈川県の厚木基地から山口県の岩国基地へ，空母艦載機の移転が始まった。移転は段階的に進められ，３月，すべて完了した。これによって，岩国基地は軍用機の数が移転前の２倍の約120機に増え，東アジア最大規模のアメリカ軍の航空基地となった。

この間，山口局・岩国支局は，移転を受け入れた地元自治体の動きのほか，騒音や安全に対する住民の懸念などをリポートや番組などで伝えた。

６月，JR西日本が運行を始めた豪華寝台列車「トワイライトエクスプレス瑞風」が中国地方で初めて山口県萩市の駅に立ち寄った。沿線にある山口局・萩支局や下関支局は，地元の歓迎の動きや観光振興への期待を伝えた。

鳥取局・米子支局では北朝鮮による拉致問題を継続して伝えた。米子市の松本京子さんが拉致されてから10月21日で40年となった。米子支局では兄の孟さんが，アメリカのトランプ大統領と面会して拉致被害者家族の現状を訴えたり，小学校で拉致に関する特別授業を行う様子を取材して伝えた。

６月，米子空港で離着陸訓練を行っていた航空自衛隊のC2輸送機が滑走路をはみ出して草地に突っ込み，空港が３時間にわたって閉鎖された。米子支局は混雑する空港ロビーの様子や自衛隊機のトラブルの原因などを迅速に伝えた。

16年，最大震度６弱の揺れを観測した鳥取県中部の地震から１年を迎え，鳥取局・倉吉支局は「私の10.21」と題して，被災者の地震直後の体験や，その後の復興状況などを詳しく伝えた。

岡山県倉敷市では７月，障害者の就労を支援する福祉サービス事業所が経営悪化を理由に閉鎖され，200人以上が解雇された。岡山局・倉敷支局は，閉鎖に至った経緯や突然解雇された障害者の思いを継続して取材しリポートした。

また，倉敷市と四国を結ぶ瀬戸大橋の開通30年を半年後に控えた11月には，橋の開通で役目を終えた電車を地域の活性化に生かそうという取り組みを企画でいち早く伝えた。

山陰地方では夏場，豪雨に度々襲われた。特に島根県西部は７月，記録的な大雨に見舞われ，中国地方では初めて大雨特別警報が発令された。松江局・浜田支局は，現地の状況を，中継を交えながら伝えた。また，世界遺産に登録されてから節目となる10年を迎えた「石見銀山」の現状を取材し，遺産の魅力を維持しようという地元のさまざまな取り組みを詳しく報じた。

〔四国〕

四国地方の各支局は，この１年，災害報道の拠点として大きな役割を果たしたほか，地域に密着した課題などを取材し，地域や全国へ発信した。

17年12月，愛媛県伊方町の伊方原発３号機について広島高裁は「熊本県の阿蘇山で巨大噴火が起きて原発に影響が出る可能性が小さいとは言えない」などとして運転の停止を命じる仮処分の決定をした。松山局・八幡浜支局は地元自治体の反応を詳しく伝えたほか，当面，発電所としての役割が果たせない事態となった意味付けをリポートした。また，県内有数の産地になっている八幡浜市のみかんの生産技術を学ぼうと視察に訪れたスリランカ農業省の動きを丁寧に取材し，全中発信と国際発信につなげた。

国の政策決定過程に疑念の声もある加計学園の獣医学部が18年４月に開学した。これに先立ち地

元・今治市と愛媛県は総額93億円の補助金を支出することを決めた。今治支局は，市が補助金の支出を検討し，市議会で決定するまでの過程をつぶさに取材し，報じた。

松山局・新居浜支局は，授業や子どもの指導の在り方について，地域の声を積極的に取り入れる「コミュニティ・スクール」の制度を導入した新居浜市の小学校を取材，リポートした。学校では，地域の住民が教壇に立ち，学校の運営を話し合う協議会にも参加している。全国の中で導入が遅れている愛媛県内の現状を報告した。

冬の時期，全国的に寒く荒れた天気となることが多かった中，愛媛県でも山間部や南部を中心に雪に見舞われることが多かった。宇和島支局は，雪が降るたびにその様子をはじめ交通や農産物への影響などを取材し，詳しく伝えた。18年３月，JR四国の特急列車「TSE」が引退し，鉄道ファンや鉄道マンの引退を惜しむ声を丁寧に取材し，発信した。

９月，四国に接近した台風18号で高知局・くろしお支局は，雨や風が強まる現状を中継で詳しく伝えたほか，四万十市で２人が行方不明になるなど，被害の現状をきめ細かく取材した。また，高知県西部の山あいの地域で，高校の分校が廃校の危機を迎えている現状を取材し，存続を願う人々の思いを伝えた。

徳島局・阿南支局は，８月や９月の台風において，南部の海陽町から台風の現状，交通影響，避難状況などを中継で伝えるなど，災害報道の前線としての役割を果たした。また，人口減少や高齢化が進む中，農作物を食べてしまう鹿やイノシシなどの動物を捕獲するハンターを育成する取り組みをリポートで伝えた。

本州と四国を結ぶ瀬戸大橋が18年４月で開通から30年を迎えた。これを前に高松局･丸亀支局は，本州四国連絡高速道路の社長に瀬戸大橋に寄せる思いを聞いたほか，30周年を記念した催しや開通による影響などを多角的に取材し，放送した。かつて経営難に陥った四国唯一のテーマパーク「NEWレオマワールド」（丸亀市）が集客のために旅行ツアーを企画するなど工夫を凝らす取り組みを取材し，伝えた。

〔九州・沖縄〕

九州・沖縄の支局は，豪雨・地震などの自然災害や事件・事故，地域の課題などの取材で重要な役割を果たしている。

福岡の支局のうち，飯塚支局は，17年５月に発生した嘉麻市の産業廃棄物処理施設の火事を継続的に取材した。

行橋支局は６月，みやこ町で行われた囲碁の井山裕太本因坊の対局の様子を取材し，地元の囲碁ファンの反応などとともに伝えた。

久留米支局は，７月の九州北部豪雨で，被害の状況や避難指示・勧告の情報，避難している人たちに向けた生活情報などを発信した。

大牟田支局は，大牟田市の市制施行100周年を巡る地元の動きを細かに取材し，伝えた。

熊本の支局のうち，阿蘇支局は，年間を通じ，熊本地震の復興に向けた動きや，阿蘇山の火山活動を巡る動きを取材し，伝えた。

県北支局は，19年の『大河ドラマ』が「いだてん～東京オリムピック噺（はなし）～」と発表されたことを受け，地元の驚きや期待を取材した。

県南支局は「酒かす石けん」という新たな商品開発に取り組んだ地元の会社の取り組みなどを紹介した。

天草支局は，世界遺産登録を目指す崎津集落に新たな観光客向けの休憩所が出来たことを取材し，伝えた。

人吉支局は９月，国土交通省が中山間地域の芦北町で自動運転車の実証実験が始まったことを伝えた。

水俣支局は，水俣病を伝え，被害者を支え続けた作家の石牟礼道子さんが亡くなったことを伝えるとともに，患者などの悼む声を紹介した。

長崎の支局のうち，島原支局は，雲仙普賢岳で91年に起きた大火砕流から26年を迎えた17年６月，不安定な状態にある溶岩ドームの崩落に備える地元の取り組みなどを全国に発信し，防災報道に努めた。

諫早支局は７月，同市内で630人が犠牲となった「諫早大水害」から60年がたつのを機に，追悼の様子や水害を語り継ごうとする人々の思いを伝えた。

五島支局は１月，離島では珍しい積雪の様子を映像に収め，全国に発信し，減災報道に努めた。

鹿児島の支局は，７月から10月にかけて台風の取材に追われた。特に，８月の台風５号は，屋久島付近に長い時間停滞したため，各地で大雨の被害や交通機関への影響が出た。

奄美支局は，記録的な大雨が降った奄美大島の被災状況などを取材し，最新情報を発信した。

鹿児島空港支局は10月，霧島連山の新燃岳で発生した11年以来の噴火について，地元の防災対策や影響を細かく取材し，伝えた。また，２月，霧島連山の御鉢で，火山性地震が増加して噴火警戒

レベルが２に引き上げられた際には，登山道の規制などの情報を細かく取材し，伝えた。

宮崎の支局のうち，都城支局は10月，霧島連山の新燃岳の噴火で，ふもとの地域を取材し，降灰による人々の生活や農業などへの影響を伝えた。また，３月の噴火の際には，警戒を強める高原町役場から中継も行うとともに，警戒範囲の拡大など状況の変化に応じ，役場の対応や農業・畜産業への影響を伝え続けた。

延岡支局は９月，台風18号の影響で浸水した世帯の様子を伝えたほか，排水ポンプが十分に機能しなかったという課題についてもリポートした。

大分局の支局も豪雨や台風の取材に追われた１年だった。日田支局と中津支局は，７月の九州北部豪雨で，最初期の段階から豪雨と被害の状況を伝え住民に警戒を呼びかけた。住民生活や経済活動などさまざまな分野の復旧・復興の課題についても継続的に伝えてきた。

佐伯支局は，台風18号による大雨で，地域の多くの住宅に浸水被害が出た状況を詳しく伝えるとともに，JR日豊線の被害状況や約３か月後の復旧の様子をはじめ広範囲に広がった被害の状況を伝えた。

佐賀の唐津支局は，10月の衆議院選挙で過去に例のない事態に直面した。投開票日が台風21号の接近と重なり，唐津市に７つある離島から投票箱を運ぶことができず，開票作業が翌日にずれ込んだことから，取材は異例の長時間に及んだ。また，同支局は，３月，玄海町の玄海原子力発電所３号機がおよそ７年ぶりに再稼働した際，東日本大震災から再稼働に至るまでの経緯などをまとめたほか，地元の受け止めや反応なども含めて詳しく伝えた。

沖縄の支局は，基地問題の取材で大きな役割を担っている。沖縄中部支局と名護支局は，米軍普天間基地の移設計画に関して，辺野古沖での護岸工事の動きや地元の反応などを迅速・的確に伝えた。同基地の移設計画が争点となった２月の名護市長選挙では，情勢取材を丹念に行い，選挙報道に貢献した。

宮古島支局は９月に沖縄地方に接近した台風18号の際，住民の備えや被害状況などについてきめ細かく伝えた。

八重山支局は，９月に米軍輸送機オスプレイが新石垣空港に緊急着陸するトラブルの一報をつかみ，自治体や住民の反応，その後の飛行再開などの動きを継続して発信した。

４．海外総支局

18年３月31日現在，４総局・26支局の計30の総支局で計81人が業務にあたっている。

アジア総局管内では，ミャンマー西部で少数派のイスラム教徒，ロヒンギャの武装勢力と治安部隊との戦闘をきっかけに，ロヒンギャの人たちが隣国のバングラデシュに避難する動きが止まらず，ミャンマーへの国際的な批判が高まった。ロヒンギャの人たちやミャンマー政府高官に直接取材をし，ニュースや番組で伝えた。

韓国では，パク・クネ氏が職権乱用などの責任を問われ，大統領を弾劾されたあと，17年５月に大統領選挙が行われ，革新系のムン・ジェイン氏が大統領に就任。選挙結果を速報で伝えた。

北朝鮮は17年，ミサイル発射を繰り返し，核実験も強行。速報で伝えた。18年に入ると，北朝鮮は，一転して融和的な姿勢を打ち出し，２月のピョンチャンオリンピックに高位級の代表団を派遣した。その後，ピョンヤンを訪れた韓国の特使に南北首脳会談と米朝首脳会談に応じる姿勢を示した。

中国総局管内では，17年10月の中国共産党大会で習近平国家主席の指導理念が党規約に盛り込まれた。18年３月には全人代（全国人民代表大会）で憲法改正案が採択され，国家主席の任期の撤廃を決め，習主席は憲法の上でも絶対的な権威を確立した。一方，天安門事件から28年となった17年の７月，当時の民主化運動の象徴的な存在で，服役中にノーベル平和賞を受賞した劉暁波氏が死去した。こうした中国の動きを継続的，多角的に伝えた。

香港には，中国への返還20年に併せて習近平国家主席が訪問，一部で出ている独立の主張を強くけん制した。18年３月には香港の議会，立法会の補欠選挙が行われ，中国に批判的な民主派が選挙区で落選するなど，厳しい結果になった。

台湾では，18年２月に東部でマグニチュード6.4の地震が起き，17人が死亡。現場から中継で伝えた。17年６月には，中国が中米のパナマと国交を樹立したことに伴い，パナマと断交した。

ヨーロッパ総局管内では，17年もロンドン，パリ，バルセロナなどで人混みに車が突っ込むなどテロが続き，多くの犠牲者が出た。

17年には，フランスで大統領選挙，オランダで議会選挙，イギリスで総選挙，ドイツで連邦議会選挙が行われた。イギリスではメイ首相率いる保守党が過半数割れし，フランス，オランダ，ドイツではEUを支持する勢力が勝利したが，右派も

伸長した。一方，スペインからの独立を求めて，カタルーニャ州の州議会が17年10月，一方的に独立宣言を可決したのに対して中央政府は強制的に州議会を解散した。改めて選挙が行われたが，独立支持派が過半数の議席を獲得，混乱が続いた。

ロシアでは，18年３月の大統領選挙でプーチン大統領が圧勝。経済の立て直しや欧米との関係改善などの課題も交え多角的に伝えた。

17年10月にはノーベル文学賞に日系イギリス人のカズオ・イシグロ氏が選ばれ，単独インタビューを行い，番組でも伝えた。７月には核兵器の開発や保有などを禁止する核兵器禁止条約が賛成多数で採択され，その後，ノーベル平和賞に核兵器廃絶運動を続けてきたICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）が選ばれた。授賞式には被爆者も参加し，中継も交えて伝えた。

中東では，過激派組織IS・イスラミックステートが拠点としていたシリアのラッカとイラクのモスルが陥落した。また，シリアのアサド政権が反政府勢力に対して化学兵器を使用したとして，アメリカは４月，シリアを空爆したが，内戦終結にはつながらず，混迷が続いた。

アメリカ総局管内では，トランプ大統領が６月，地球温暖化対策のためのパリ協定離脱を表明，12月にはエルサレムをイスラエルの首都と認めると宣言した。18年には鉄鋼製品などへの異例の輸入制限措置を発動するなどした。トランプ政権では，高官の辞任や解任が続き，こうした政権の動きを詳しく伝えた。

一方，10月にはラスベガスで男が銃を乱射し，58人が死亡，２月にはフロリダの高校で元生徒が銃を乱射し，17人が死亡するなど銃による犯罪が相次いだ。また，10月にハリウッドの大物プロデューサーによるセクハラ行為が明らかになって以降，政治家や俳優などによるセクハラが連日報道され，こうした動きをニュースや番組で伝えた。

中南米では，ベネズエラのマドゥーロ大統領が議会とは別に新憲法を制定するための「制憲議会」のメンバーを選ぶ選挙を行い，アメリカなどとの間で対立が深まった。また，ペルーでは失脚後収監されていたフジモリ元大統領に恩赦が与えられ，その反響について取材した。

海外総支局では，国際放送の拡充やインターネット展開に併せて発信力を強化し，世界の最新情勢を正確かつ迅速に伝えている。

NHKの海外総支局（18年３月31日現在）

■アジア総局（バンコク）：マニラ，ジャカルタ，ハノイ，ニューデリー，イスラマバード，シンガポール，シドニー，ソウル

■中国総局（北京）：上海，広州，香港，台北

■ヨーロッパ総局（パリ）：ロンドン，ブリュッセル，ベルリン，ウィーン，カイロ，ドバイ，ヨハネスブルク，エルサレム，テヘラン，モスクワ，ウラジオストク

■アメリカ総局（ニューヨーク）：ワシントン，ロサンゼルス，サンパウロ

以上の30総支局で，記者，ディレクター，カメラマン，技術担当，経理担当，計81人の特派員が業務にあたっている。

Ⅵ．気象情報

総合テレビの気象情報の放送時間は１日約１時間20分（平日）で，12人の気象予報士が各番組に出演した。台風や大雨などの際には定時ニュースに加え特設ニュースで気象解説を行い，防災・減災報道に努めた。16年度に続いて，予報画面の更新や新規開発を進めたほか，『ニュース７』で大型のモニターとCGを組み合わせた立体的な表現に取り組むなど，演出面の改善にも努めた。

地域放送局の気象情報の演出強化も進めた。地域放送局では作画できない雨や雪の予想地図動画を本部で一括して制作し，配信することで，ローカルでも充実した内容の気象情報を発信できる枠組みを作った。

Ⅶ．スポーツ

１．ピョンチャンオリンピック・パラリンピック

韓国で初めての冬のオリンピック開催となったピョンチャン大会は，92の国と地域などが参加。２月９日から25日までの17日間にわたり，７競技102種目で行われた。日本選手は金４，銀５，銅４の計13個を獲得。98年の長野大会の10個を上回り，史上最多となった。

現地との時差はなく，総合テレビは，競技が行われる午前９時から夜間にかけて「中継枠」を編成。午後11時台には「ハイライト枠」を設けた。また，副音声で視覚障害者のための副音声実況をオリンピックでは初めて行った。

BS1は地上波で放送しない種目などを中継で伝えるとともに，深夜の時間帯を「見逃しゾーン」とし１日約18時間，７競技すべてを放送した。

８Kでは開会式，フィギュアスケート，ジャン

プ，スピードスケート（ショートトラック），スノーボード（ビッグエア）を制作。また，オリンピックでは初めてとなる４Kではカーリング，アイスホッケー，スキーフリースタイル，閉会式を放送した。

デジタルではリオ大会に続いて，特設ホームページやアプリを通じ，すべての競技映像を配信。配信時間はライブと見逃しを合わせて約1,229時間となった。また，約300本のハイライト動画を制作，YouTubeのNHK公式チャンネルでも公開した。中継番組をネットで配信するインターネット同時配信実験（試験的提供A）を毎日実施。オリンピック関係の番組の配信時間は約196時間，視聴者数は144.1万だった。このほか８K中継映像を４Kに変換し，ハイブリッドキャストやNHKオンデマンドで提供する取り組みも行った。データ放送では日本選手の結果を中心に伝えた。

ピョンチャンパラリンピックは日本時間３月９日から18日までの10日間，49の国と地域などが参加して行われた。日本は前回ソチ大会の６個を上回る10個のメダルを獲得した。

総合テレビでは冬では初めて期間中ほぼ毎日，競技を生中継。午後10時台には『パラリンピックタイム』を放送した。また，総合の朝９時台では，視覚や聴覚に障害のある人に向けた「ユニバーサル放送」を行い，スタジオの手話キャスターや字幕放送，解説放送でパラリンピックについて伝えた。

テレビの放送時間は，合計約79時間と，前回ソチ大会の約31時間を大きく上回り，冬では過去最長となった。

デジタルでは，国際映像について，すべてインターネットで配信，配信時間はライブと見逃しを合わせて約534時間だった。データ放送でもオリンピックと同様のサービスを実施した。

ピョンチャンオリンピック・パラリンピック放送時間量

	オリンピック	パラリンピック
総合	184時間39分	約37時間
Eテレ	23時間46分	約7時間
BS1	275時間45分	約35時間
R1	66時間38分	
合計	550時間48分	約79時間
スーパーハイビジョン（試験放送）＊	140時間55分	（中継番組は実施せず）

＊スーパーハイビジョン（試験放送）は中継の時間のみを記載。なお、パラリンピックは総集編を４月に放送予定

２．サッカー

〔Jリーグ〕

Jリーグでは17年シーズンからJ1・J2・J3すべての試合の映像をJリーグが制作し，インターネットを通じて配信する新しいサービスが始まった。J1では「川崎フロンターレ」が，一時は勝ち点８差をつけられていた「鹿島アントラーズ」を最終節に逆転し，初優勝を飾った。

BS1では，J1・J2合わせて合計45試合を放送。総合テレビでは，J1開幕や優勝争いなど注目カード，合計８試合を放送した。また，NHK地方局によるローカル放送はJ1・J2・J3を合わせ，延べ66試合だった。

〔天皇杯〕

NHKが96年から共催する天皇杯全日本サッカー選手権は，サッカー界のカレンダー再編に伴い，２回戦から準々決勝までが「平日開催」に変更された。決勝は埼玉スタジアム2002で開催され，「セレッソ大阪」が43年ぶりに優勝した。

２回戦から準々決勝までの計５試合をBS1で，準決勝・決勝の３試合を総合とR1で放送した。

〔皇后杯〕

皇后杯全日本女子サッカー選手権は，準決勝，決勝の計３試合をBS1で放送した。

〔FIFAワールドカップ2018予選ほか〕

2018FIFAワールドカップのアジア最終予選で，日本は８月31日，埼玉スタジアム2002で行われたオーストラリア戦に勝って，６大会連続６回目の出場を決めた。NHKでは最終予選の日本戦，全10試合をBS1で生中継した。

2020年東京五輪の出場資格を持つU-19日本代表が参加した５月のトゥーロン国際大会（フランス），東京五輪を見据えて世代交代を図る女子日本代表「なでしこジャパン」が参加した７月の国際大会（アメリカ），いずれもBS1で日本戦を生中継した。

アジアのクラブチームナンバーワンを決めるAFCチャンピオンズリーグには，日本から４チーム（鹿島，浦和，川崎，ガンバ大阪）が参加し，「浦和レッズ」が10年ぶりに優勝を果たした。BS1では決勝を録画放送した。

３．野球

プロ野球はセ・リーグでは「広島カープ」が37年ぶりに連覇を達成した。パ・リーグは「ソフトバンクホークス」が，２年ぶり18回目の優勝を果たした。日本シリーズは，「DeNAベイスターズ」

がセ・リーグ３位からクライマックスシリーズを勝ち抜いて出場した。優勝は４勝２敗で「ソフトバンクホークス」。２年ぶり８回目の栄冠に輝いた。

17年はレギュラーシーズンを地上波・BS1合わせて113試合，クライマックスシリーズをBS1で８試合，日本シリーズをBS1で４試合，合計125試合の放送をした。

「広島」がリーグ優勝に王手をかけた９月14日は急きょ地上波で「広島対DeNA」を編成，同時にBS1ではマジック対象チームの「阪神対巨人」を放送しプロ野球ファンの期待に応えた。「広島」の優勝は９月18日に持ち越したが，BS1「阪神対広島」で伝えた。また，パ・リーグの優勝も９月16日「西武対ソフトバンク」で放送しセ・パ両リーグの歓喜の瞬間を伝えた。日本シリーズは第１，２，４，６戦を放送し，第６戦で「ソフトバンク」の日本一を伝えた。

「DeNA」の本拠地，横浜スタジアムで行われているパブリックビューイングからも生中継。多角的に見せることに成功した。

17シーズンは，個性的なスタジアムを見せる演出にもこだわった。ロケや中継カメラで「球場イベント」や「球場メシ」など各球場の魅力を紹介した。

６月には『ゆる～く深く！プロ野球』第３弾をBS1で実施。放送センターのスタジオにゲスト，解説を招いて，ふだんの中継とは一線を画した角度から野球の魅力にとことんこだわって放送した。ツイッターやメールからの質問，意見も多く寄せられた。16年に行った『ゆるふか』は「第７回衛星放送協会オリジナル番組アワード」で中継部門最優秀賞を受賞した。

映像面では，ワイヤレスカメラを積極的に用いた。行動範囲が広がるとともに映像表現の可能性が広がった。CGではシーズン途中から新しいデータシステムを導入し斬新な切り口に展開した。

４．大リーグ

2017シーズンはレギュラーシーズン184試合，ポストシーズン35試合，オールスターゲーム１試合を放送。うち総合テレビでは13試合を中継した。レギュラーシーズンでは「ヤンキース」田中将大，「レンジャーズ」のダルビッシュ有，「ドジャース」前田健太の登板試合を中心に放送。ポストシーズンでは上記の３投手の活躍を伝えた。第７戦までもつれたワールドシリーズはダルビッシュと前田が所属する「ドジャース」を「アストロズ」が倒し初のシリーズ制覇を果たした。

５．ATPテニスツアー

17年のATPテニス中継は，世界を転戦して９大会行われるマスターズ1000とその獲得ポイント上位８人のみが出場できる「ニットー ATPワールドツアーファイナル～ロンドン～」の計10大会を放送した。このうち５大会を現地から，５大会を東京のスタジオから，合計82試合（16年に比べ７試合プラス）を生中継した。再放送も含めた総放送時間は１万4,384分（16年に比べ1,572分のマイナス）に上った。

錦織選手は17年のシーズン，８月のウエスタン＆サザン・オープン（シンシナティ）大会以降を欠場した。悲願のマスターズ1000初優勝に向けて，今後の活躍が期待される。

６．大相撲

年６場所90日間の本場所を総合，BS101ch・102ch（サブチャンネル），R1で放送した。幕内の時間には副音声で英語放送を，総合では生字幕放送を実施した。また，ハイライト番組は，総合テレビで『大相撲　幕内の全取組』を放送したほか，国際放送のNHKワールドで７月から『GRAND SUMO Highlights』の放送を開始した。さらに国際放送のアプリでも試験的に１日限定で配信を開始し，海外の視聴者から好評を得ている。

17年度は，夏場所で横綱・白鵬が６場所ぶりの復活優勝を全勝で飾った。続く名古屋も制し，優勝記録を39回目に伸ばした。秋場所は大関・豪栄道との決定戦を制した横綱・日馬富士が優勝。九州場所では白鵬が40回優勝の大記録を達成した。

この場所では，日馬富士による貴ノ岩への暴行が明らかになった。途中休場した日馬富士は場所後に引退。師匠の貴乃花親方は鳥取県警に被害届を提出したが，協会の調査に協力しないなど，かたくなな姿勢を見せる一方，千秋楽の優勝インタビューでは白鵬が万歳三唱をするなど数々の問題が噴出した。

翌18年初場所は稀勢の里，白鵬の２横綱が休場の中で平幕の栃ノ心が初優勝した。続く春場所は横綱･鶴竜が８場所ぶり４回目の優勝を果たした。

７．ゴルフ

福岡県若宮市のザ・クラシックゴルフ倶楽部で行われた日本シニアオープンは，タイのプラヤド・マークセンが通算18アンダーの大会最少ストロー

クで優勝。史上６人目の連覇を成し遂げた。

記念すべき50回目を迎えた日本女子オープンは千葉県我孫子市の我孫子ゴルフ倶楽部で行われた。16年大会で史上初のアマチュア優勝を果たした畑岡奈紗がプロ転向１年目で再びみせた。通算20アンダーの大会最少スコア，大会最少ストロークを更新する268ストロークで優勝。樋口久子以来40年ぶり２人目となる大会連覇も達成した。全体３位に入った高校２年生の小倉彩愛がローアマチュアを獲得。

82回目となる日本オープンの会場は，岐阜県関市の岐阜関カントリー倶楽部・東コース。雨中決戦となった最終日，単独首位でスタートした池田勇太を，ともに最終組で回るアマチュアの金谷拓実が追い上げ１打差に詰め寄る展開に。池田はショットの不調に苦しみながら終盤をしのぎきって逃げ切り。今大会２回目の優勝を果たした。最後まで池田を苦しめた金谷は２位でホールアウトし，自身２回目のローアマチュアを獲得した。

８．Bリーグ

16年に開幕した国内最高峰のプロバスケットボール，Bリーグ。17年５月，レギュラーシーズン上位８チームがトーナメント形式で争ったチャンピオンシップ，ファイナルでは「川崎ブレイブサンダース」と「栃木ブレックス」が対戦した。第４クォーターに逆転した「栃木」が勝利し，初代王者に輝いた。

２年目のシーズンは９月29日に開幕し，「栃木ブレックス」対「シーホース三河」の試合をBS1で放送した。２年目はBS1で放送した14試合のうち12試合を金曜夜に放送。定時枠を設けることで，視聴習慣の誘導を図った。１月には復興支援を目的に熊本で行われたオールスターゲームを生中継した。

18チームが３地区に分かれて争うB1リーグでは，地区再編の結果，東地区に強豪が集まった。初代王者の「栃木」が一時地区最下位となるなど，各チームが実力をつけ，１年目よりもレベルアップした戦いが繰り広げられた。

2020年東京オリンピック・パラリンピック準備状況

NHKは，20年に開催される東京大会で「最高水準の放送・サービス」を提供することを目標に掲げている。準備に当たる「2020東京オリンピック・パラリンピック実施本部」は，17年度は職員29人体制で，記者・PD・技術・放送管理など各分野の経験と知見を生かしかつてない大規模プロジェクトの計画立案，新たな放送サービスの開発，関係各所との交渉・調整などを進めている。

17年度は，16年度までに策定した基本計画案を具体化し，新たに「実施計画」としてまとめた。「最高水準の放送・サービス」を実現するため，①大会を開催国ならではの臨場感で伝える「最高のコンテンツ」，②デジタルやユニバーサル放送・サービスなどの「イノベーション」，③事前関連番組やイベント展開などで「すべての人を巻き込む仕組み」の３つのミッションを掲げ，準備作業を加速している。

17年10月の東京大会「1000日前」には，各部局と協力し，特集番組やイベントを展開。新たなデジタル技術を活用した演出など，2020を見据えたさまざまなトライアルを実施した。

18年２～３月のピョンチャン冬季大会では，五輪・パラリンピックの両方で字幕や副音声による分かりやすい解説や手話などを交えたユニバーサル放送を初めて実施した。また，ロボット実況やVR360°動画など2020を見据えた新たなサービスを多数実施した。

また，NHK初の取り組みとして，障害のある人に呼びかけて採用した３人のリポーターも活動を開始。ピョンチャンパラリンピックの現場を取材するなど活躍の場を広げた。

組織委員会の準備進展と歩調を合わせ，「最高のコンテンツ」の中核となる大会中継放送の計画を進めたほか，史上最大規模のプロジェクトを支えるロジスティクスの準備を進めた。

また，64年前回東京大会の聖火リレー映像を発掘するプロジェクトを開始。2020特設サイト上に映像を掲載し，さらなる映像発掘を呼びかけた。

実施本部で進めているこうした準備状況について全局的に周知する「推進プロジェクト」を開始。地域局や関連団体に向けても情報共有を行い，全局体制の構築を進めた。

情報番組

Ⅰ．経済・社会情報番組部

経済・社会情報番組部は，17年度も社会，経済が大きく変動する中，時代と人に向き合う番組を放送し続けてきた。

『クローズアップ現代＋』『プロフェッショナル　仕事の流儀』『ドキュメント72時間』『ごごナマ』『週刊　ニュース深読み』（以上，他部局との

共管番組含む）と，後期から『ファミリーヒストリー』も加わり，６番組を定時番組として担当した。また『NHKスペシャル』をはじめとする特集番組も多数制作した。

（１）定時番組

『クローズアップ現代＋』は，17年４月よりキャスターを一新し，番組の顔を固定することで視聴者への浸透を図った。情報ボードからバーチャルのグラフやVTRが飛び出す新たな演出で，情報密度を高めた。さらに，スマホ世代へのリーチを拡大するために，視聴者からSNSなどで寄せられた情報を基に，ともに番組を作り上げる“オープン・ジャーナリズム”を本格化させた。また，スタジオ中心の短期制作クロ現＋「短クロ」を立ち上げ，緊急ものをタイムリーに放送した。

ドキュメンタリー番組では，あらゆる分野で活躍する一流の“プロ”の仕事を徹底的に掘り下げる『プロフェッショナル　仕事の流儀』。１つの場所に３日間密着し，そこを行き交う人々の人間模様や知られざるドラマを記録する『ドキュメント72時間』。著名人の家族の歴史を取材し，本人も知らないルーツに迫る『ファミリーヒストリー』などを放送した。

（２）特集番組

経済・社会情報番組部では，ジャーナリスティックな切り口で，多彩な特集番組を制作した。

『NHKスペシャル』では,「シリーズ　マネー・ワールド資本主義の未来　“トランプ経済”は世界を変えるのか！？」「ニッポンの家族が非常識！？　第２集　妻が夫にキレる本当のワケ」「時間が止まった私　えん罪が奪った7352日」を制作。『ETV特集』では,「加藤一二三という男、ありけり。」「こいのぼりとしゃぼん玉～悲しみでつながる遺族たち～」を制作。『BS1スペシャル』では,「幻の原爆ドーム　ナガサキ　戦後13年目の選択」「サムライゲーマー～賞金５億円　世界に挑む若者たち～」を制作。ナレーションを排して取材対象に迫る新たなドキュメンタリー『ノーナレ』では,「町工場×テクノ」「津軽　雪空港」を制作した。それ以外には,『400年後の真実　慶長遣欧使節の謎に迫る』『明日へ　つなげよう～悲しくて　愛しくて　空をみる』などの特集番組を制作した。

開発番組としては,『逆転人生』『発掘！スゴイ日本人　銅像をどーぞ』という２つの新たなドキュメンタリー番組にチャレンジした。

Ⅱ．生活・食料番組部

生活・食料番組部は，現代社会のさまざまなテーマを「生活者の視点」から見つめ，視聴者の関心や疑問にこたえる情報番組を制作した。

生活・食料番組

17年度は，月～金曜朝の『あさイチ』，月～水曜昼の『ひるブラ』，木曜夜の『所さん！大変ですよ』，日曜朝の『うまいッ！』，火曜夜の『サラメシ』などを定時番組として放送した。

（１）定時番組

『あさイチ』は，視聴者が“一番欲しい”“もっと知りたい”と考える情報がたっぷり詰まった，“市場”のような活気ある番組。主なターゲットは主婦。長引く不況やセーフティーネットの綻びによるかつてない不安な時代を賢く生きていくための「信頼できる情報」を，８年目も，いち早く家庭に届けた。社会問題，政治の話題からエンタメ，生活実用情報までを，ニュースとはひと味違う「生活者の視点」から掘り下げて伝えた。また，視聴者からの質問や意見をファックスやメールで受け付け，生放送の中で積極的に紹介。番組は視聴者の身近な存在となることに努めた。

中継番組『ひるブラ』は「行ってみたい！」「見てみたい！」「食べてみたい！」四季折々の姿を見せる全国各地の“旬”な場所を訪ね，その地域の魅力を生中継でダイレクトに届けた。東京のスタジオ出演者が画面の小窓で登場し，率直な質問や反応を投げかける演出スタイルで放送した。

『所さん！大変ですよ』は，社会の片隅で起きていた“不思議な事件”を深掘りし，意外な真相をあぶり出す情報番組。ディレクターが体当たりで取材する演出スタイルで，午後８時台の番組として定着した。

『うまいッ！』は“うまいッ！”と思わず言ってしまうような日本各地の絶品食材をテーマに，おいしいものを届けたいと奮闘する生産者に密着。味を極める技や工夫を伝えるとともに，健康効果や歴史文化などのうんちく，とっておきの調理法を紹介。多角的に食材の魅力を描き，食を支える人々と産地を応援する番組として好評を得た。

７年目を迎えた『サラメシ』は，取材を希望する視聴者からの投稿がコンスタントに来ており，「サラリーマンの昼メシを通して日本の今が見える」ユニークな番組として多くのファンを獲得している。

（２）特集番組

朝の情報番組『あさイチ』では，東日本大震災直後から被災地応援の一環として，リポーターで俳優の篠山輝信さん（通称アッキー）が現地を訪ねる「バスで！列車で！アッキーがゆく“復興の地”」を放送。17年は「秋の特別編」（9.26～28）と題して，3.11とは異なる季節の被災地の日常を取材し伝えた。また，熊本地震から１年目（4.14）には南阿蘇村からキャラバンを実施。復興に立ち向かう人々の姿を伝え大きな反響を呼んだ。20年のオリンピック・パラリンピック東京大会関連では『あさイチ』「東京オリンピック1000日前　知っとかないともったいないスペシャル」（10.25）を放送。IP中継で建設中の選手村や，ボランティアの募集について紹介し機運を盛り上げた。

『21人の輪～相葉雅紀と旅立ちの子どもたち』（3.27）では，福島県相馬市で被災時に小学６年生だった子どもたちが18歳となるまでの７年の成長をドキュメントで記録し放送。深い感動を呼んだ。

ネット連動型の生放送『おやすみ日本　眠いいね！　第14弾』（12.23）は，過去の出演者11人が駆けつけ５周年を祝い，スタジオには“眠いいざこね”客が全国から集まった。

『シンデレラ・ネットワーク』（12.21）では，人気ユーチューバーと，“すっぴん”の女性たちの自宅をネットの電話会議システムで接続。渋谷のスタジオから女性たちにキレイになる技を直接指導，デジタルワークショップを取り入れた演出で話題を呼んだ。

『世界制服』は世界のさまざまな分野の制服のディテールをファッションとして楽しむ教養エンターテイメント番組。「空を制服」（9.4）では世界の客室乗務員の制服の美しさや機能，「学校を制服」（9.11）では世界の学校の制服の歴史や制服に秘められた奥深い物語を楽しくひもときながら，新たな切り口で制服を紹介し放送した。

「くう・ねる・あそぶ」子どもプロジェクトでは『くうねるあそぶ　こども応援宣言』「こどもごはん」（E，4.1），「楽しい！つらい？学校給食」（2.3）を放送。貧困による空腹の影響は？　など，ごはんを通して聞こえてくる子どもたちのリアルな声に耳を傾け，大人ができることを考えた。

趣味・実用番組

（１）定時番組

料理番組については，長年多くのファンからの支持を受けている『きょうの料理』，主に初心者に向けて料理の基本を分かりやすく伝える『きょうの料理ビギナーズ』を月～木曜の午後９時台に放送した。月に１回『きょうの料理　生放送COOK９』を放送。Twitterでの投稿に応えながら，生放送で料理を楽しく作る視聴者参加型の演出が好評を得た。同じく固定ファンに支えられている園芸については，野菜作りの楽しさを伝える『趣味の園芸　やさいの時間』，花と緑を生かすライフスタイル提案のミニ番組『趣味の園芸グリーンスタイル　京も一日陽だまり屋』，本格的な園芸ファンのニーズにも応える『趣味の園芸』の３番組を，日曜朝８時台に放送した。

クラフト系の番組としては，手芸など手作りの楽しさを伝え，固定ファンから支持されている『すてきにハンドメイド』を木曜夜９時台に放送。『ガールズクラフト』は，小・中学生向けに安価な素材でかわいい雑貨やアクセサリーを手作りするノウハウを紹介した。

趣味のジャンルを扱う『趣味どきっ！』は月～水曜夜９時台に放送。「家で楽しむ　私のカフェスタイル」「海・山・町を再発見！　おとなの歩き旅」など生活を豊かにする提案から，文化体験，スポーツ講座まで，現代社会の趣味の多様化に合わせて放送。

月～木曜の夜間には，暮らしに役立つさまざまなノウハウをコンパクトに伝える５分ミニ番組『まる得マガジン』を放送した。

若者に身近な事象を経済学で分かりやすく読み解いていく『オイコノミア』は，６年目を迎え，存在感のある番組として定着した。

50代以上の世代の健康的で豊かな暮らしを提案する新番組『あしたも晴れ！人生レシピ』を金曜午後８時に放送。「目指せ！じょうぶで美しい歯」（6.23），「夢を実現！悔いなく生きる」（3.9）など健康，住まい，お金，ファッションなど幅広いテーマを取り上げた。

（２）特集番組

放送60周年を迎えた『きょうの料理』では，60年の歴史を数々のエピソードで振り返る『祝60歳きょうの料理伝説60』（11.4），日本各地の地域に根ざした家庭料理や道具を巡る『きょうの料理60周年記念　土井善晴　家庭料理と民藝をめぐる旅』（3.28）を放送。長期継続番組ならではの映像アーカイブや，地域色豊かな料理の奥深さを伝えた。

『極上！スイーツマジック』では，一流パティシェの発想や驚きの技をハイスピードカメラなどで映像化し，魅惑のスイーツが生まれる瞬間に密着。「梅雨のジメジメを吹き飛ばす　スカッとス

イーツ」(6.14),「見たこともない！モンブラン」（11.24）などを放送した。

Ⅲ．科学・環境番組部

科学・環境番組部は，計13タイトルの定時番組と，『NHKスペシャル』22本など数多くの特集番組を制作。「科学報道」「科学ロマン」「生活科学」を３本柱として，先端技術や医学，宇宙，自然などの最新情報を分かりやすく伝えた。

（１）定時番組

総合テレビでは，前身から数えて23年目を迎えた『ガッテン！』，12年目を迎えた『ダーウィンが来た！生きもの新伝説』，天体衝突やプルトニウム被ばく事故といったテーマで５本制作した『クローズアップ現代＋』などを放送した。

Eテレでは，『サイエンスZERO』『すイエんサー』，50周年を迎えた『きょうの健康』などを放送した。BSプレミアムでは，『コズミック　フロント☆NEXT』『ワイルドライフ』などを放送，４K一体化制作も積極的に実施した。

（２）特集番組

17年度は『NHKスペシャル』を22本放送。「シリーズ　人体」は，全８本シリーズで，最新の８K顕微鏡映像を駆使し，臓器同士がさまざまな情報をやり取りする人体の巧妙なメカニズムに迫った。また，医学・健康分野では，「○○が危ない」シリーズとして，「睡眠負債」「血圧サージ」「ゴースト血管」の３本を生放送で伝えた。

東日本大震災関連では「廃炉への道2017」「帰還した町で」「被曝（ばく）の森2018」などを放送。熊本地震関連では「熊本城　再建」を放送。７月に発生した豪雨災害については「九州北部記録的豪雨はなぜ」を緊急放送した。「MEGA CRISIS　巨大危機Ⅱ」のシリーズでは，都市直下地震やスーパー台風といった巨大災害のメカニズムと対策に迫った。

自然分野では「ディープ・オーシャン」シリーズで「南極」「超深海」を放送，「深海2017」（国立科学博物館）に60万人以上が来場するなど大きな関心を集めた。

他に，「シリーズ古代遺跡透視　大ピラミッド発見！謎の巨大空間」，テクノロジーの光と影に迫る「人工知能　天使か悪魔か　2017」「あなたの家電が狙われている」，現代の人間関係に科学で迫る「ニッポンの家族が非常事態！？」，科学技術立国・日本の課題を浮き彫りにする「追跡東大研究不正」を放送した。

30年目を迎えた「ロボットコンテスト」は，８月に『ABUアジア・太平洋ロボコン』を８年ぶりに東京で開催，放送のほかインターネットも活用し12言語で世界にライブ配信した。第30回『高専ロボコン』は12月に有明コロシアムで全国大会を開催，総合テレビで生放送した。

Ⅳ．文化・福祉番組部

文化・福祉番組部では，視聴者の知的好奇心に応える「知的エンターテイメント番組」，社会の課題を歴史的・構造的視点で描く「教養ドキュメンタリー番組」，マイノリティーや社会的弱者の声を取り上げる「福祉番組」を３つの柱に据えて番組を制作した。

「知的エンターテインメント番組」の分野では，総合定時の『探検バクモン』が午後10時台から８時台に移設され，現役世代のファミリー層を意識して内容を変更。当該層の関心が高い場所を訪れた。

さらに30～40代女性をターゲットにした海外紀行番組『世界はほしいモノにあふれてる』，40～50代のキラーコンテンツである健康と歴史を融合させた『偉人たちの健康診断』，若者をターゲットにした『又吉直樹のヘウレーカ！』など新番組の開発を行った。

特集番組では『NHKスペシャル』「大ピラミッド　発見！謎の巨大空間」で最新科学技術を用いた考古学の大発見を伝えたほか，『明治維新150年スペシャル』「決戦！鳥羽伏見の戦い」でドラマ制作の専門チームと組み，従来の歴史番組に飽き足らない目の肥えた視聴者の取り込みに挑んだ。

「教養ドキュメンタリー番組」の分野では『ETV特集』を中心に戦争・憲法・沖縄の問題を重点的に取り上げたほか，風化が進む東日本大震災についても住民や障害者など災害弱者の目線に立ち，多様な視点で震災７年目の被災地をルポした。

「福祉番組」の分野では，１年で最も若者の自殺が多い９月１日の前夜に当事者の悩みや声を聴く「＃８月31日の夜に。」のほか，『ハートネットTV』で依存症や性暴力被害などをテーマに当事者と支援者をつなぐ番組を放送した。これらの番組ではSNSやライブストリーミングを全面的に活用し，問題解決の場を放送後も継続し育てていくことを目指した。

さらにピョンチャンオリンピック・パラリンピックでは，障害のある人もない人も一緒に楽しめ

るユニバーサル放送を初めて本格的に行い，生放送やハイライト番組で伝えた。

以上の３本柱に加え，４K･８Kのスーパーハイビジョンやデジタル展開にも積極的に取り組んだ。前者では「２時間でまわる日本･世界の名所」シリーズ，『絶海！謎と神秘の巨石文明　モアイとイースター島』『ETV特集』など。後者では前述の福祉番組のほか，「災害時　障害者のためのサイト」を立ち上げ，７月の九州北部豪雨で２週間にわたって災害弱者向けにライフライン情報を発信した。

教育番組

Ⅰ．青少年・教育番組部

（１）青少年・定時番組

新番組『えいごであそぼ with Orton』『オトッペ』がスタート。『オトッペ』は番組連動アプリを提供し100万ダウンロードに達した。また，朝６時台，夕方５時台に放送の『にほんごであそぼ』『えいごであそぼ with Orton』『ゴー！ゴー！キッチン戦隊クックルン』の３番組でもデータ放送を開始。放送に付随するデジタルサービスを強化した。

『天才てれびくんYOU』はデータ放送に加え，AR技術を導入した公開生放送を行った。『ビットワールド』は，番組ホームページ上でキャラクターと会話して育成する「AI・ノートちゃん」を開発して放送した。

『Rの法則』は番組ホームページでネット独自動画を配信し，さらにインターネットと連動する企画E-tubeRを制作した。『人生デザイン　U-29』はU-29世代ならではの新しい価値観・生き方を描いた。

『週刊　ニュース深読み』は，模型を使ったプレゼンテーションなどで分かりやすくニュースを読み解いた。『ウワサの保護者会』は，子育ての悩みや疑問に答えながら，最新の教育情報を紹介した。『ねほりんぱほりん』は「人生とは？」「幸せとは？」などの普遍的なテーマに迫った。

（２）青少年・特集番組

『未知たび！』は，未知の言葉の意味を探る旅を通して，中学・高校生世代に体験や発見の魅力を伝えた。『しあわせニュース2017』はこの１年間のニュースの中から「しあわせ」なものだけを選(よ)りすぐり放送した。このほか『福島をずっと見ているTV』『おやすみ王子』『ろんぶ～ん「痴漢」』『スーパープレミアム「潜入！世界最高峰のマジック殿堂　マジックキャッスル」』など，多彩な特集番組を放送した。

（３）学校教育・定時番組

新番組として，社会科番組『コノマチ☆リサーチ』，総合的な学習の時間をサポートする『ドスルコスル』を放送した。そのほか『メディアタイムズ』『Why！？プログラミング』なども新規開発して放送した。

（４）学校教育・特集番組

NHK全国学校音楽コンクール関連として『発表！Nコン2017課題曲』などを放送したほか，全国コンクールに向けてSNSを利用した周知活動も積極的に行った。裁判員裁判を疑似体験する『昔話法廷』では，シリーズで初めて死刑を扱った。『いじめをノックアウトスペシャル　第10弾「スイッチ！」』は，SNS上でのトラブル防止などについて放送した。そのほか『香川照之の昆虫すごいぜ！「３時間目　オニヤンマ」』『全日本なわとびかっとび王選手権2017』などの特集番組を放送した。

（５）学校教育・イベント関連

①「第68回放送教育研究会全国大会」（10月27～28日）は，仙台市で開かれた。「メディア・ICTで実現する深い学び」をテーマに，「NHK for School」の多彩な実践の発表と，ワークショップなどが行なわれ，延べ2,500人余りが参加した。

②「第84回NHK全国学校音楽コンクール」には，小･中･高合わせて2,548校，約10万人が参加した。NHKホールで行われた「全国コンクール」（10月７～９日）では小学校・中学校・高等学校の部を生放送した。

③「第64回NHK杯全国高校放送コンテスト」には地方予選を含め，全部門合わせて1,677校が参加した。

④「第34回NHK杯全国中学校放送コンテスト」には地方予選を含め，全部門合わせて680校が参加した。

（６）学校教育・関連委員会

①教育放送企画検討会議（年２回／７月，12月）

全国各ブロックからの意見を集約して番組計画を立案したうえで，学識経験者，全国放送教育研究会連盟役員，教員，教育行政関係者と，17～18年度の「NHK for School」の制作方針および教育コンテンツの将来の在り方について検討を行った。

②学校放送番組委員会

各番組の企画・制作にあたって，学識経験者，

教員，教育行政関係者などと意見交換を行い，学校現場の意向や要望を反映させた。

（７）外国語講座番組・定時番組

Eテレ・ラジオ第２で10言語，42講座を放送した。

①英語

テレビ・ラジオ・アプリによるマルチな学習を目指した『ボキャブライダー on TV』『ボキャブライダー』，リズムに乗って楽しく英語を学習する『エイゴビート』，おもてなしフレーズに的を絞った『しごとの基礎英語』を新作放送。ラジオでは『高校生からはじめる「現代英語」』や『短期集中！３か月英会話』など分かりやすいタイトルの講座を新設，細分化・多様化する学習者のニーズに対応した。

②ヨーロッパ言語

２シーズン目に入ったイタリア・ドイツ・フランス・スペイン語の「旅する」シリーズを後期新作として放送。また『テレビでロシア語』の後継番組『ロシアゴスキー』を新作した。ラジオでは，上記言語にポルトガル語を加えたラインアップで幅広い学習ニーズに応えた。

③アジア言語

『テレビで中国語』『テレビでハングル講座』，ラジオでは『まいにち中国語』『まいにちハングル講座』『レベルアップ　中国語』『レベルアップハングル講座』を放送。初学者からより深く学びたい層にまで対応。また，インバウンドニーズに応えるべく『おもてなしの中国語』（R2）を新作放送した。

（８）外国語講座番組・特集番組

定時番組から派生した語学特集や開発番組を随時放送したほか，17年度好評だった『レイチェルのパリの小さなキッチン』の続編『レイチェルのおいしい旅レシピ』を放送。また，世界各地のユニークなホテルを紹介する『異世界ホテル旅』を４K一体化制作で行った。

芸能番組

Ⅰ．ドラマ番組部

17年度のドラマ番組は，連続ドラマ，単発・シリーズドラマそれぞれの特長を生かして質の高いドラマ制作を目指した。連続ドラマでは『大河ドラマ』「おんな城主　直虎」,『連続テレビ小説』「ひよっこ」「わろてんか」がいずれも好評を博したほか，『ドラマ10』は現代女性だけでなくさまざまな生き方を描く挑戦的なドラマを制作。『土曜ドラマ』は社会派ドラマだけでなく，家族で楽しめるエンターテインメントドラマを目指した。さらに『土曜時代劇』を『土曜時代ドラマ』と改め，従来の時代劇ファンだけでなく，新たな時代劇ファンを獲得した。『BS時代劇』『プレミアムドラマ』でも斬新な企画で視聴者層の拡大に挑んだ。

（１）連続ドラマ

①『大河ドラマ』

63年「花の生涯」から始まった『大河ドラマ』は，17年「おんな城主　直虎」で56作目。作・森下佳子，主演・柴咲コウ。戦国時代に男の名で家督を継いだ「おんな城主」がいた。遠江（静岡県西部）井伊家の当主・井伊直虎である。戦のたびに当主を殺され，ただ一人残された姫が,「直虎」と勇ましい名を名乗って乱世に立ち向かい，その後の発展の礎を築いた。知恵と勇気を武器に自ら運命を切り開いた女の激動の生涯を描いた（全50回）。

②『連続テレビ小説』

「朝ドラ」として定着。17年度前期「ひよっこ」で96作目。作・岡田惠和，主演・有村架純。茨城県の農村で生まれ育ったヒロイン・谷田部みね子が，東京に出稼ぎに出ていた父の失踪をきっかけに集団就職で上京。ラジオ工場や洋食屋で働きながら数々の出会いを重ね，見知らぬ町だった東京にしっかりと根を張っていく。高度成長期をひたむきに生きた「名もなき人々」にスポットを当て，日々の暮らしを温かく描いた（全156回）。

「わろてんか」は，作・吉田智子。葵わかな演じるヒロイン・藤岡てんが京都の老舗薬種問屋「藤岡屋」の長女として生まれ，大阪で笑いを届けることを目指し，日本中を笑いで元気にしていこうとする物語（全151回）。

（２）単発・シリーズドラマ・オーディオドラマ

①『土曜時代ドラマ』

土曜午後６時５分に新設された新シリーズで，戦国時代や江戸時代だけでなく，昭和までも含めた時代を描き幅広い世代に楽しんでもらえるドラマを目指した。「みをつくし料理帖」（８回),「悦ちゃん」（８回),「アシガール」（12回）を放送し，従来の時代劇ファンだけでなく，若い世代にも支持された。

②『土曜ドラマ』

土曜午後８時15分から家族で楽しめる社会派ドラマとして「４号警備」（７回）は硬派な警備員たちの人間模様を骨太に描き,「幕末グルメ　ブ

シメシ！」（６回）では江戸に単身赴任中の武士たちの食事を巡るエピソードを明るく描いた。また「植木等とのぼせもん」（８回）はモデルとなった人物たちをほうふつとさせる出来栄えと評価された。

③『ドラマ10』

金曜夜10時放送。女性視聴者に支持を得てきた『ドラマ10』は，「ツバキ文具店」（８回），「ブランケット・キャッツ」（７回）などハートウォーミングなヒューマンドラマや，「この声をきみに」（８回），「マチ工場のオンナ」（７回）などシリアスなテーマを扱いつつも前向きになれるドラマ，さらに「女子的生活」（４回）でLGBTに向き合うドラマなど多様なドラマを放送した。

④『プレミアムドラマ』

BSプレミアムの日曜夜10時では，「PTAグランパ！」（８回），「クロスロード」（６回），「定年女子」（８回），「全力失踪」（８回），「山女日記」（２回），「男の操」（７回），「平成細雪」（４回），「我が家の問題」（４回），「弟の夫」（３回）を放送した。

⑤木曜夜11時からBSプレミアムで『この世にたやすい仕事はない』（８回），『ソースさんの恋』（８回），水曜夜11時からBSプレミアムで『連続ドラマ』「幕末グルメ　ブシメシ！２」（７回）を放送した。

⑥『BS時代劇』は金曜の午後８時からの放送で「立花登青春手控え２」（８回），「伝七捕物帳」の再放送に引き続き「伝七捕物帳２」（８回），「赤ひげ」（８回），「大岡越前４」（８回）を放送，時代劇ファンの期待に応えた。

⑦特集ドラマでは，『大河ファンタジー　精霊の守り人～最終章～』（９回），BS特集ドラマ『スペシャルドラマ　返還交渉人～いつか、沖縄を取り戻す～』『正月時代劇　風雲児たち～蘭学革命篇（らんがくれぼりゅうしへん）～』，『NHKスペシャル』「ドラマ　龍馬　最後の30日」，『特集ドラマ』「スニッファー嗅覚捜査官スペシャル」「眩（くらら）～北斎の娘～」，「どこにもない国」（２回）などを放送した。

⑧オーディオドラマは定時番組『FMシアター』『青春アドベンチャー』『新日曜名作座』のほか，『特集オーディオドラマ』を放送。また，良質の舞台演劇を中継する番組『プレミアムステージ』では演劇ファンの要望に応えた。

Ⅱ．エンターテインメント番組部

エンターテインメント番組部では，主に音楽（歌謡曲・ポップス）やバラエティー・演芸のジャンルで，幅広い層の視聴者に親しんでもらう娯楽番組を制作した。

（１）定時番組

音楽番組は，総合では『うたコン』『SONGS』のほか，演歌・歌謡曲ファンに向けた新番組『ごごウタ』をスタート。BSプレミアムでは『新・BS日本のうた』『ザ少年倶楽部』『AKB48 SHOW！』など，多彩な音楽ジャンルを取り上げた。

バラエティー番組では，総合夜７時台の『鶴瓶の家族に乾杯』『ブラタモリ』のほか，音楽バラエティー『バナナ♪ゼロミュージック』，コント番組『LIFE！～人生に捧げるコント～』，演芸番組『○○○○の演芸図鑑』などを制作した。

Eテレでは，ダンスを子ども向けにレクチャーする『Eダンスアカデミー』を制作。

ラジオ番組は，アイドル，J-POP，洋楽，演歌・歌謡曲といった幅広いジャンルの音楽番組，『トーキング　ウィズ　松尾堂』などのトーク番組，演芸や浪曲番組など，ラジオの特性を生かした音楽以外のジャンルの番組なども制作。多様なラジオリスナーのニーズに応えた。

また，地域の会館で視聴者とNHKを結び付ける役割を担う“公開派遣番組”としては，『NHKのど自慢』をはじめ，『歌う！SHOW学校』『真打ち競演』『キャンパス寄席』など数多くを制作した。

（２）特集番組

17年度は，定番の大型歌謡イベントや，定時番組を発展させた特集，視聴者層の拡大をねらった開発番組など，年間でおよそ140本を制作した。

大みそか恒例『NHK紅白歌合戦』，第68回となる17年度は“夢を歌おう”というテーマのもと，NHKホールから生放送で届けた。毎年８月に懐かしい歌謡曲を届けている『思い出のメロディー』も，今回で第49回を数えた。

そして，若者向けの音楽番組『シブヤノオト』『NAOMIの部屋』や，明石家さんまがMCを務めた『明石家紅白！』，全国の18歳を集めてライブ収録した『WANIMA 18祭』など多様な音楽特集番組も制作した。

BSプレミアムでは，全国の高齢者施設に笑いを届ける『出張！お笑いエンジェル』や，全国の